OLYMPUS

デジタルカメラ

取扱説明書

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- この取扱説明書は、カメラのファームウェアVer1.0にもとづいて記載されています。カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

本書の構成

基本操作を覚える ➡ かんたんガイド

カメラの準備と設定、簡単な撮影から再生・削除までの基本操作を順を追って説明しています。

E-410を使いこなす ➡ P 18

まず1章の内容を確認してカメラの基本動作をマスターしてから、このカメラに備わっている各機能を使ってみましょう。

カメラの操作を覚える ☞「E-410を使いこなす」（P 18）

撮影ガイドで、機能の活用法を確認する ☞「上手に撮るために — 撮影ガイド」（P 26）

各機能のページに進みます。

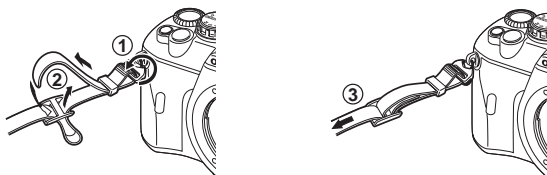
知りたい内容を探すには

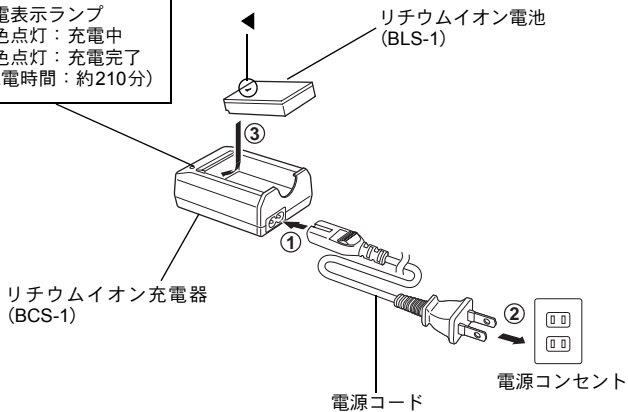
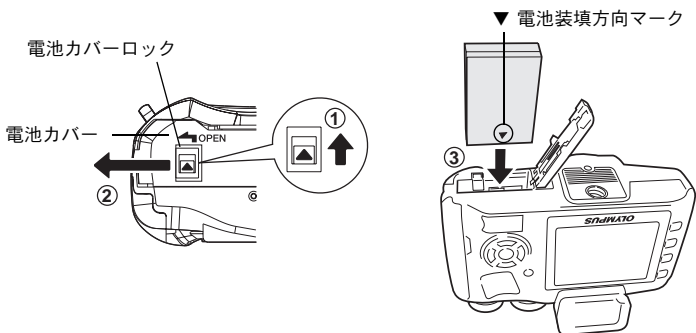
☞「こんなときは?」（P 103）、「メニュー一覧」（P 119）、「各部の名称」（P 125）、「索引」（P 150）

本書の表記について

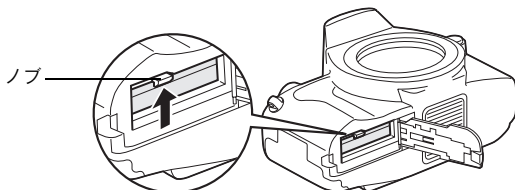
	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ストラップを取り付ける

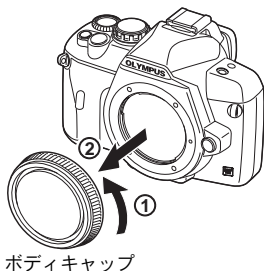
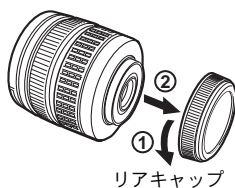
矢印にしたがってストラップを通します（①、②）。
最後に強く引っ張り、抜けないことを確認してください（③）。
もう一方のストラップ取り付け部にも、同様にストラップを取り付けます。

電池を準備する

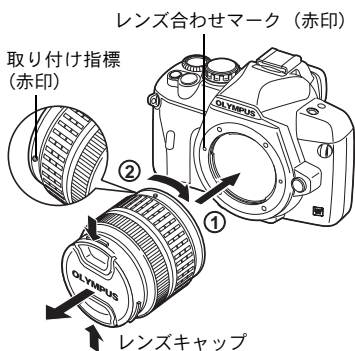
1 電池を充電する

2 電池を入れる

• 電池カバーはカチッと音がするまで閉めてください。

電池を取り出す

電池ロックのノブを押すと電池が出てくるので取り出します。

• 長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。

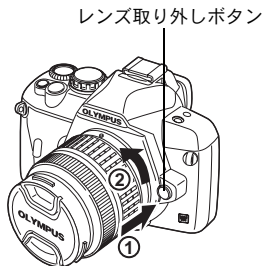
レンズを取り付ける

1 カメラのボディキャップとレンズのリアキャップを外す

2 レンズを取り付ける

- カメラのレンズ合わせマーク（赤印）にレンズの取り付け指標（赤印）を合わせ、レンズをボディに差し込みます（①）。レンズをカチッと音がするまで矢印の方向に回します（②）。
- レンズ取り外しボタンは押さないでください。

3 レンズキャップを外す

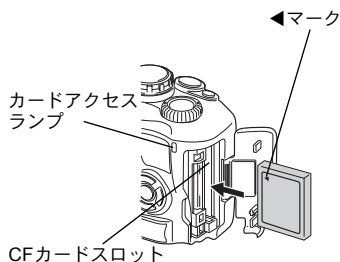
レンズを取り外す

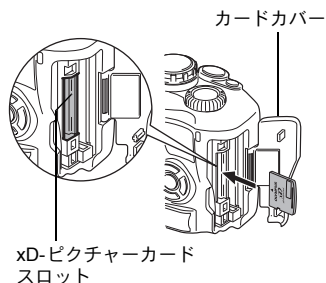
レンズ取り外しボタンを押しながら（①）、②の方向に回します。

かんたんガイド

カードを入れる

カードカバーを開けて、カードを入れます。

コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

端子側を奥にして差し込みます。

xD-ピクチャーカードの場合

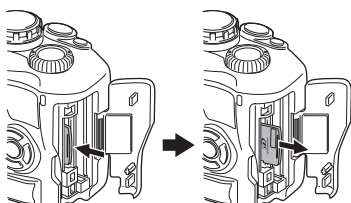
カードがロックされるまで差し込みます。

カードを取り出す

- カードアクセスランプが点滅しているときは、絶対にカードカバーを開けないでください。

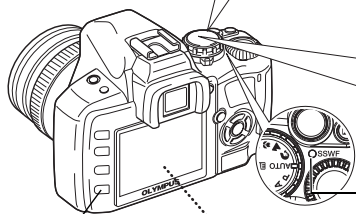
コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

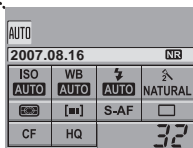
- イジェクトボタンを奥まで押し込むと、イジェクトボタンが出てきます。イジェクトボタンをもう一度奥まで押し込むと、カードが出てきます。
- カードをつまんで取り出します。

xD-ピクチャーカードの場合

- 差し込まれているカードを軽く押すと、カードが出てきます。
- カードをつまんで取り出します。

電源を入れる

パワースイッチを**ON**の位置にします。
電源を切るには、パワースイッチを**OFF**の位置にします。

モードダイヤルを**AUTO**にします。

SSWFランプ

INFOボタン

液晶モニタ

電源が入ると、液晶モニタにスーパーコンパネが表示されます。
表示されないときは**INFO**ボタンを押してください。

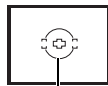
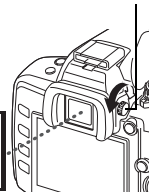
AUTO
2007.08.16 NR
ISO AUTO | WB AUTO | AUTO | NATURAL
S-AF
CF | HQ | 32

スーパーコンパネ

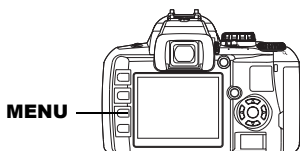
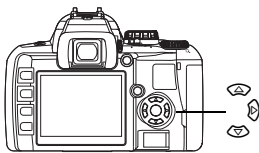
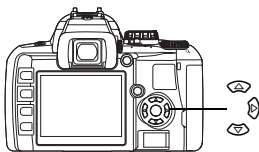
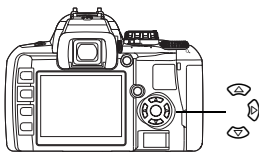
ダストリダクション機能の作動

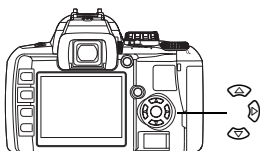
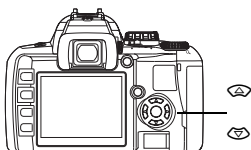
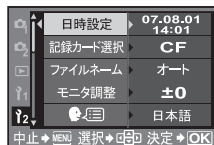
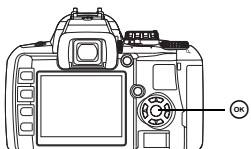
電源を入れたとき、撮像素子のフィルター前面についたゴミをスーパーソニックウェーブフィルター（SSWF）により払い落とすダストリダクション機能が自動的に働きます。ダストリダクション機能が作動中はSSWFランプが点滅します。

ファインダを見やすくする

視力に合わせてファインダの視度調整をします。
ファインダをのぞきながら、視度調整ダイヤルを少しずつ回します。
AFフレームがはっきり見えたら調整完了です。

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

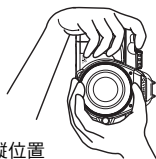
1 **MENU**ボタンを押す

2 △▽で[2]を選択し、▷を押す

3 △▽で[日時設定]を選択し、▷を押す

4 △▽で[年]を選択し、▷を押す

5 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力する

- 時刻は24時間表示です。

6 ⊕⊖で日付の順序を選択する

7 ⓞⓚボタンを押す

8 MENUボタンを押して終了する

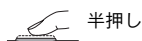
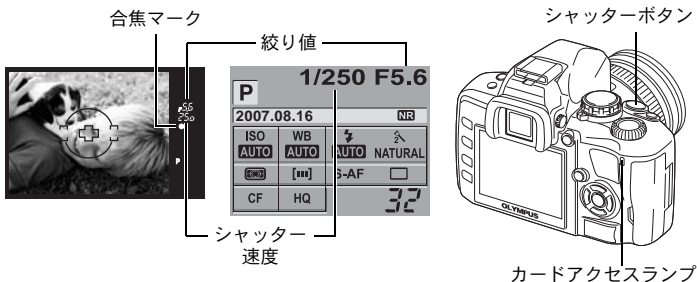
撮影する

1 カメラを構える

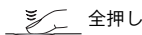
レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

横位置　　縦位置

2 ファインダをのぞきながらAFフレームに被写体を合わせ、構図を決める

3 ピントを合わせる

シャッターボタンを軽く押します（半押し）。

半押し

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯し、ピントの合ったAFフレームが点灯します。
- カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。
- シャッターボタンが押されている間は、スーパーコンパネは消灯します。

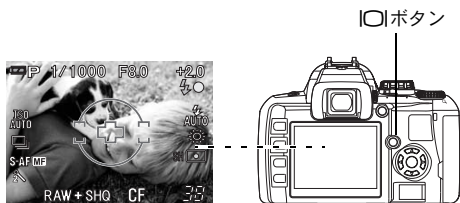
4 撮影する

半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

全押し

- シャッター音がして、撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。
- カードアクセスランプの点滅中は、絶対に電池やカードを抜かないでください。撮影した画像が保存されないだけではなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。

液晶モニタを見ながら撮影する

液晶モニタを見ながら構図を決めて撮影することもできます。
☞「ライブビュー」(P 24)

1 ［◻］（ライブビュー）ボタンを押す
- 液晶モニタに被写体が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しする
- ピント合わせをして撮影されます。

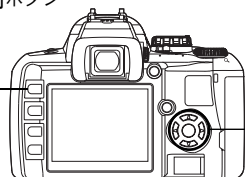
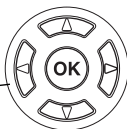
カメラが動作を停止したときは

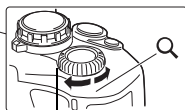
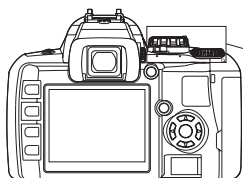
電源を入れたまま約8秒間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐために液晶モニタのバックライトが消灯します。さらに約1分何も操作しないと、スリープモード（待機状態）になり、カメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどを操作するとカメラは動作を再開します。☞「バックライト時間」(P 88)、「スリープ時間」(P 87)

かんたんガイド

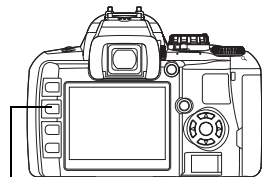
再生する／削除する

画像を再生する

▶（再生）ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

クローズアップ再生する

コントロールダイヤルを🔍側に回すたびに2～14倍と拡大倍率が変化します。

画像を削除する

消去したい画像を再生し、🗑（消去）ボタンを押します。
△▽を押して**[実行]**を選択しⓄボタンを押すと、削除されます。

もくじ

1　E-410を使いこなす 18

カメラの持つ機能とその操作方法について説明します。

2　上手に撮るために — 撮影ガイド 26

場面に合った撮影方法について説明します。

3　撮影機能 32

撮影機能を、撮影モード、撮影機能、ピント合わせ、露出・色・画像の調整に分けて説明します。

撮りたいものに合わせて設定する

いろいろな撮影機能

ピント合わせの機能

露出・色・画像

4 再生機能 70

撮影した画像を再生する際に使う機能について説明します。

5 設定・機能のカスタマイズ 81

その他の各種機能について説明します。カメラを使用する環境に合わせて、設定や機能を変更することができます。

6 プリントする 90

撮影した画像をプリントする方法について説明します。

7 OLYMPUS Master を使う 98

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する方法について説明します。

8 もっとカメラのことが知りたいときに 103

困ったときやカメラをもっと知りたいときにご覧ください。

9 資料 116

カードや充電池の取り扱い説明、カメラの機能や表示についての一覧表です。

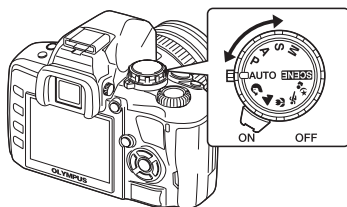
10 交換レンズについて 139

交換レンズの取り扱いについて説明します。

11 その他 142

カメラや付属品についての使用上のご注意を説明します。

モードダイヤルの使い方

モードダイヤルを使うと、撮影する被写体に合わせてカメラの設定を簡単に変えることができます。

かんたん撮影モード

- 撮影シーンに合わせて選びます。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。
- かんたん撮影モードでは、モードダイヤルを回したり、電源をオフにすると設定した機能は、初期設定に戻ります。

AUTO	オート	最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップします。
	ポートレート	人物撮影をするのに最適です。
	風景	風景を撮るのに最適です。
	マクロ	被写体に近接した撮影を行うとき（マクロ撮影）に使用します。
	スポーツ	スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。
	夜景＆人物	夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。
SCENE	シーンモード	撮影状況に合わせて、撮影シーンを20種類の中から選択することができます。（P 32）

応用撮影モード

- 絞り値、シャッター速度を任意に設定し、より高度な撮影ができます。
- 応用撮影モードで設定した機能は、カメラの電源を切っても設定を保持しています。

P	プログラム撮影	絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて設定します。（P 33）
A	絞り優先撮影	絞り値を自分で設定します。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。（P 34）
S	シャッター優先撮影	シャッター速度を自分で設定します。絞り値はカメラが自動的に設定します。（P 35）
M	マニュアル撮影	絞り値とシャッター速度を自分で設定します。（P 36）

機能の設定方法

設定の方法

設定には以下の3通りの方法があります。

- スーパーコンパネ表示を見ながら設定する（下記）
- 機能の割り当てられたダイレクトボタンを使って設定する（☞ P 21）
- メニューを表示して設定する（☞ P 22）

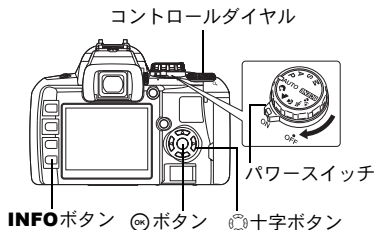
スーパーコンパネを使って機能を設定する

スーパーコンパネに表示されている項目を選んで、設定を変更します。

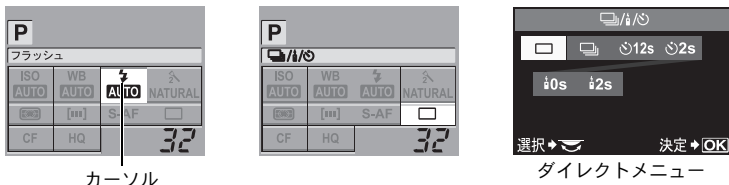
1 **パワースイッチをONにすると、液晶モニタにスーパーコンパネ（撮影情報の表示・設定する画面）が表示されます。**

- **INFO**ボタンを押すたびに表示が切り換わります。
- ライブビュー中もスーパーコンパネを表示して、設定を変更できます。

スーパーコンパネ

基本表示　　詳細表示　　表示OFF

2 **OKボタンを押します。**

- スーパーコンパネにカーソル（選択されている機能）が点灯します。

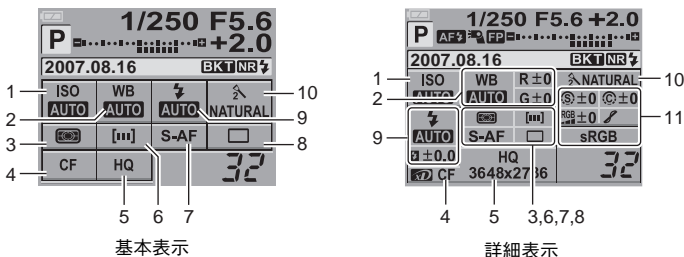
例）連写／セルフタイマー撮影／リモコン撮影設定の場合

カーソル

ダイレクトメニュー

3 **十字ボタンでカーソルを設定したい機能に移動させます。**

4 **コントロールダイヤルを回して設定を変更します。**
- 項目を選択した状態でⓄⓚボタンを押すと、その機能のダイレクトメニューが表示されます。コントロールダイヤルを回して設定を変更します。
- Ⓞⓚボタンを押すか、数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。

スーパーコンパネの機能一覧

基本表示と詳細表示では設定できる機能が異なります。

基本表示　　詳細表示

番号	項目	基本表示	詳細表示	参照ページ
1	ISO感度	✓	✓	P 62
2	ホワイトバランス	✓	✓	P 64
	ホワイトバランス補正	—	✓	P 65
3	測光モード	✓	✓	P 60
4	使用カード	✓	✓	P 117
5	画質モード	✓	✓	P 58
6	AFフレーム	✓	✓	P 54
7	フォーカスモード	✓	✓	P 55
8	連写／セルフタイマー／リモコン	✓	✓	P 49
9	フラッシュモード	✓	✓	P 45
	フラッシュ補正	—	✓	P 46
10	仕上がりモード	✓	✓	P 67
11	カラー設定 シャープネス コントラスト 彩度 階調	—	✓	P 69 P 67 P 67 P 67 P 68

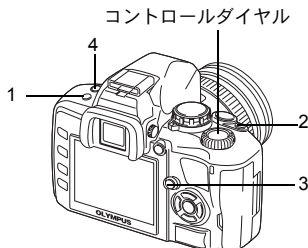
✓：設定可　—：設定不可

ダイレクトボタンを使って機能を設定する

このカメラは、機能の設定がすばやくできるように、ボタンに機能を割り当てたダイレクトボタンを備えています。

1 **設定したい機能のボタンを押します。**
- ダイレクトメニューが表示されます。

例）連写／セルフタイマー撮影／リモコン撮影の設定

ダイレクトメニュー

2 **コントロールダイヤルで設定します。**
- ㊚ボタンを押すと設定が確定されます。また、数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。

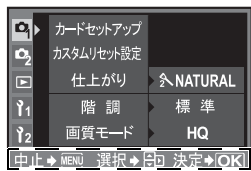
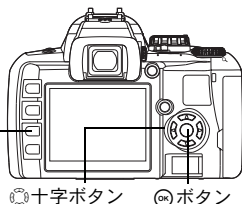
ダイレクトボタン一覧

ボタンに割り当てられた機能は以下の通りです。

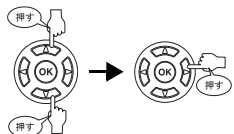
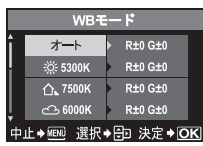
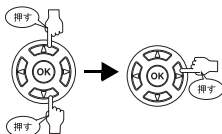
番号	ダイレクトボタン		機能	参照ページ
1		リモコン／セルフタイマー／連写ボタン	リモコン撮影／セルフタイマー撮影／連写	P 49
2		露出補正ボタン	露出補正	P 61
3		ライブビューボタン	ライブビューのオン／オフ切り換え	P 24
4		フラッシュボタン	フラッシュのポップアップ、フラッシュモード設定	P 45

メニューを表示して機能を設定する

1 MENUボタンを押します。

- 液晶モニタにメニューが表示されます。

ボタンの操作ガイドが表示されます。
中止 →MENU ：**MENU**を押して設定を中止します。
選択 → ：十字ボタンのを押して、選択肢を選びます。
表示されるマークは、以下の十字ボタンに該当します。
：　：　：　：
決定 →OK ：を押して選択肢を決定します。

2 で機能を設定します。

タブ　　現在の設定が表示されます　　機能

タブ内の機能に移動します。

機能を選択し、各設定画面に進みます。

タブの種類

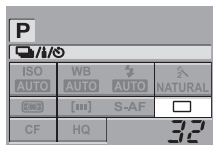
- 1 撮影に関する設定をします。
- 2 撮影に関する設定をします。
- 再生に関する設定をします。
- 1 撮影機能をカスタマイズします。
- 2 カメラを使いやすくする機能を設定します。

1
E-410を使いこなす

3　メニューから抜けるまで、繰り返し OK を押します。

- 通常の撮影画面に戻ります。
- メニューの全一覧は、「メニュー一覧」（☞ P 119）をご覧ください。

本書の記載方法

本書では、スーパーコンパネ、ダイレクトボタン、メニューでの操作方法を以下のように表記しています。

スーパーコンパネでの設定画面

ダイレクトボタンでの設定画面

メニューでの設定画面

スーパーコンパネ

例：リモコン撮影／セルフタイマー撮影／連写を設定する場合
OK ▸ 十字ボタン ：連写/リモコン/セルフタイマー ▸ OK

ダイレクトボタン

例：リモコン撮影／セルフタイマー撮影／連写を設定する場合
リモコン/セルフタイマー/連写 ▸ コントロールダイヤル

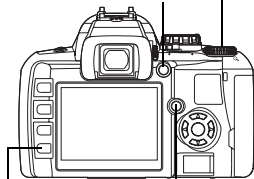
メニュー

例：ホワイトバランスを設定する場合
MENU ▸ [撮影1] ▸ [WBモード]

ライブビュー

撮影する被写体を液晶モニタに表示して構図を確認したり、拡大表示して液晶モニタを見ながら撮影することができます。

1 [□]ボタンを押します。

• 液晶モニタに被写体が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しすると、ピント合わせをして撮影されます。

• あらかじめピント合わせをして撮影する場合は、**AFL**ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。**AFL**ボタンを押したときにピント合わせをします。

• ピント合わせ中は、ミラーダウンして液晶モニタの画像は止まります。撮影後に確認画像が表示されます。

MF でピントを合わせたい

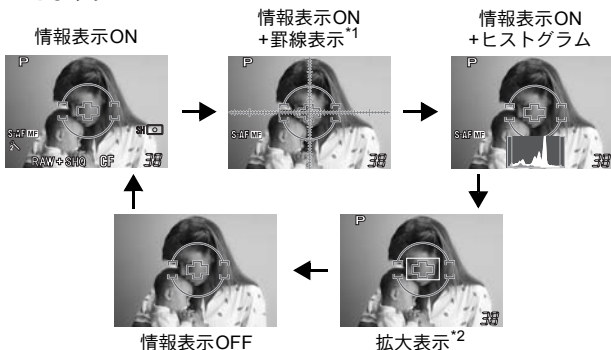
1 [AF方式]を[MF]に設定します。

☞「フォーカスモード」（P 55）

• フォーカスリングを回してピントを調整します。MFでの撮影方法は「フォーカスモード」（☞ P 55）を参照してください。

• **AFL**ボタンを押してオートフォーカスを作動することもできます。

情報表示の切り換え

INFOボタンを繰り返して押して、液晶モニタに表示される情報を切り換えることができます。

*1 **[罫線表示]**を設定しているときに表示されます。

*2 拡大表示中の操作は、次ページ「拡大表示の操作」を参照してください。

拡大表示の操作

被写体を7倍／10倍に拡大して液晶モニタに表示することができます。MFで画像を拡大してピントの確認や調整をするのに便利です。

1 **で枠を移動し、OKボタンを押します。**
- 枠の部分が拡大表示されます。
- OKボタンの長押しで移動した拡大枠は中央に戻ります。

2 **コントロールダイヤルを回して、倍率（7倍／10倍）を切り換えます。**
- OKを押すと拡大表示は解除されます。

注意
- 画面内に高輝度の光源があると黒く表示されますが、撮影画像は正常に記録されます。
- 長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、ISO感度を高くした画像ではノイズや色むらが発生します。ISO感度を低くして撮影するかしばらく電源を切ってください。
- レンズを交換するとライブビューは停止します。
- ライブビュー中は以下の機能は使用できません。
  C-AF／AEロック／**[AEL/AFLモード]**

罫線表示

構図を決めるときの目安となる罫線を液晶モニタに表示することができます。

MENU ▸ [ꝭ1] ▸ [罫線表示]
[OFF]/[黄金分割]/[方眼]/[目盛]

こんなときは

被写体を見やすいように液晶モニタを明るくしたい：
→「LVブースト」（☞ P 85）を参照してください。

基本機能ガイド

カメラの使い方に慣れるには、被写体に向けて何度もシャッターを切ってみることです。子供や花、ペットなど身近なものを被写体にして、撮影した画像を見てうまくいかなかった理由を考えてみましょう。多くの場合、撮影時にちょっと気をつけることで解消することができるはずです。

ピント：シャッターボタンの操作

撮影した画像を見て、うまく撮れていないと感じる多くの原因がピンぼけでしょう。多くの場合、被写体にピントを合わせたつもりが前後や他のものにピントがあってしまっています。
シャッターボタンの押し方には、半押しと全押しがあります。半押しと全押しがうまく使えるようになれば、動く被写体にもうまくピント合わせができるようになります。

☞「撮影する」（P 10）、「ピントが合わないとき（フォーカスロック）」（P 38）

ピントが正しく合っていても、撮影する瞬間にカメラが動いてしまうとぶれた写真になってしまいます。カメラがぶれないように正しい構え方を覚えることも大事です。特にライブビューを使用して液晶モニタを見ながら撮影しているときは、カメラは不安定です。充分明るいと感じる状況でも三脚などが必要になる場合もあります。

☞「カメラを構える」（P 10）

ピンボケやカメラぶれの他に、被写体が動いてしまってはっきり撮れていない場合も少なくありません。被写体の動きにあったシャッター速度で撮影する工夫が必要です。シャッターが切れるときにどれくらいのシャッター速度や絞り値で撮影されるかは、シャッターボタンを半押しするとファインダや液晶モニタの表示で確かめることができます。シャッターを切る練習をするときに、これらの表示も確かめるようにしましょう。

☞「モードダイヤルの使い方」（P 18）、「プレビュー機能」（P 37）、「ライブビュー」（P 24）

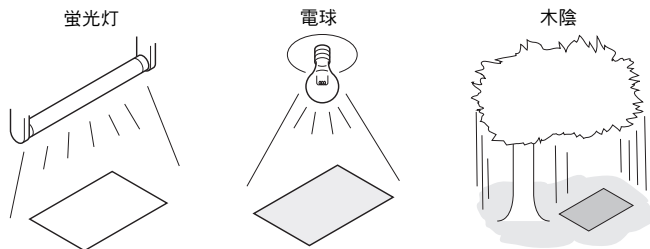
明るさ：露出補正

カメラは、明るさに応じて自動的に絞り値やシャッター速度を決めます。これを自動露出といいます。しかし、この自動露出だけでは思ったような写真にならない場合もあります。このようなときは意識的にカメラの自動露出の設定から明るく、または暗く補正をして撮影することがあります。
夏の浜辺のまぶしい感じや雪の白さを際立たせたい場合は明るめに、写したい部分は明るいが暗い部分が画面の多くを占める場合は暗めに露出補正をします。どの程度の露出補正がいいかわからないときは、いろいろ設定を変えて撮影しておくのが良いでしょう。

☞「画像の明るさを変える—露出補正」（P 61）

色：ホワイトバランス

被写体を照らす照明は、太陽の光だけではありません。電球や蛍光灯など様々な照明があります。これらの照明には太陽光と違って固有の色があります。そのため、同じ白いものを写してもどのような照明のもとで撮影したかによって、違った色で写ってしまいます。また、太陽光でも晴天の空のもと、木や建物の陰などによって違いがあります。
これらの照明の影響を、自動的に修正して正しい色で撮影するのがホワイトバランスの機能です。多くの場合、ホワイトバランスは**[オート]**の設定で正しい色の表現ができますが、撮影する状況によっては意図した色合いにならない場合があり、そのようなときは設定を変える必要があります。

☞「画像の色合いを調整する—ホワイトバランス」（P 63）

被写体別機能ガイド

被写体に応じて、どのような撮影でどのような機能が有効か紹介します。

風景を撮る

風景にも、花のある景色や夜景などいろいろあります。それぞれ撮影するためのポイントは違いますが、ここでは日中に見る森や湖などの景色を対象に紹介します。

撮影モードを変える

風景にも動きのある景色や、静寂を感じさせる静止した風景もあります。動きをどのように表現するかで撮影方法も変わります。

- 森の深さを出すために画面の広い範囲でしっかりピントの合った写真を撮るには、**A**（絞り優先撮影）モードにして、できるだけ絞り込んで（絞り値を大きくして）撮影します。
- 海岸で激しく打ち付ける波の一瞬を捉えるには、**S**（シャッター優先撮影）モードにして速いシャッター速度を選びます。滝や渓流の流れを撮影するには、シャッター速度を長秒時にすると目にする景色とは違った表現ができます。

それぞれの撮影モードでも露出補正は使えますので、撮影した画像を確認して＋や−に補正してみましょう。

ホワイトバランスを使う

同じ水を撮るのにも、深い森に囲まれた湖や南国の海ではその色は違います。微妙な色の違いを表現するにはホワイトバランスの設定を変えてみましょう。
木々の緑を映した湖の色やさんご礁に囲まれた海の微妙な色合いは、オートの設定では難しい場合があります。晴天のときは5300K（およそ晴天に該当）、晴天時の屋外の日陰では7500Kのように個々に設定を変えて撮影してみましょう。

測光モードを変える

海は深度や太陽の方向によって同じ構図の中でも明るさはかなり違います。また、森も木々の重なり具合で明るさが異なります。構図の中で露出を重視したい部分がわかっていれば、測光モードを変えてみましょう。
測光モードは、カメラの設定を変えない限りESPに設定されています。ESPは構図の中の明るさをカメラが自動的に判断して露出を決めます。しかし、構図の中で特定の部分の露出を重視したい場合などは、中央重点測光やスポット測光に変更して露出を合わせたい箇所にAFフレームを合わせて露出を測りましょう。

彩度を変える

ホワイトバランスや露出補正を使っても、見た目の色合いがうまく出せない場合があります。自分でイメージした色合いに近づけるために彩度を設定することができます。彩度は、高い、低いという設定が2段階ずつ選べます。高くすると鮮やかな色合いになります。ただし、撮影時にその設定で画像が記録されますので過度に設定するのは避けた方が良いでしょう。

☞「**A**：絞り優先撮影」（P 34）、「**S**：シャッター優先撮影」（P 35）、「測光方式を変える―測光モード」（P 60）、「画像の明るさを変える―露出補正」（P 61）、「画像の色合いを調整する―ホワイトバランス」（P 63）、「[彩度]：色の鮮やかさ」（P 67）

花を撮る

野に咲く一輪の花から、畑一面に咲く花畑までたくさんの花があります。どのように表現したいかによって撮影の仕方もかわります。

ホワイトバランスを使う

花の色も淡いものから鮮やかなものまでたくさんあります。色によっては、微妙な色合いが見た目の通りに写らないことがあります。
うまく色合いが出ないときは、光の当たり具合をみてホワイトバランスの設定を変えてみましょう。ホワイトバランスはカメラの設定をかえない限りオートに設定されています。オートでもカメラが自動的に判断するので正しく写りますが、晴天のときは5300K（およそ晴天に該当）、晴天時の屋外の日陰では7500Kのように個々に設定を変えた方が微妙な色合いをうまく引き出すことができます。

露出補正を使う

背景を入れて写すときは、花の形や色が際立って写るような背景を選びましょう。できるだけ単純な背景を選ぶ方が被写体は際立ちます。明るい白っぽい色の花を撮る場合は、暗い背景に花が浮かび上がって写るように露出補正を－（マイナス）に補正してみましょう。

撮影モードを変える

畑一面の花、または一輪の花を強調して写すのかで表現の方法も変わります。ピントの合う範囲を変えて撮影する場合は、**A**（絞り優先撮影）モードに設定して絞り値を選んで撮影しましょう。

- 絞りを開ける（絞り値を小さくする）と被写界深度（ピントの合う範囲）が浅くなり背景がぼけて被写体が強調されます。
- 絞り込む（絞り値を大きくする）と被写界深度が深くなり広い範囲にピントがあった写真になります。

絞りを変えた時の被写界深度の変化は、プレビュー機能を使うと確認することができます。

ライブビューを使う

通常レンズ交換式一眼レフの場合、露出補正やホワイトバランスを変更しても撮影して画像を再生して確かめないといけませんでした。本機ではライブビューの機能を使って、撮影しようとする被写体を液晶モニタに映し出しながら撮影することができます。

レンズを換える

咲いている花が少なくてまばらな場合は、レンズを望遠にして撮影してみましょう。望遠レンズを使うと、見た目の距離感よりも遠近感が縮まったように写り、花が密集して咲いているように写すことができます。ズームレンズの望遠側でも同じ効果が得られますが、54 mmよりは150 mmや200 mmのように焦点距離が長いほど効果を得やすくなります。

☞「**A**：絞り優先撮影」（P 34）、「ライブビュー」（P 24）、「プレビュー機能」（P 37）、「画像の明るさを変える—露出補正」（P 61）、「画像の色合いを調整する—ホワイトバランス」（P 63）

夜景を撮る

夜景にも、日が沈んだ直後の残照のある夕暮れの景色から都会の街灯りだけを写す場合まで様々あります。日が沈んでからの撮影というと花火の撮影もその一つです。

三脚を使う

夜景の撮影では、暗くてシャッター速度が遅くなるため三脚は必需品です。三脚がない場合でも、カメラを安定した場所に置くなどしてぶれないようにすることが必要です。カメラが固定されていても、シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまうこともありますので、できればリモコンやセルフタイマーを使ってシャッターを切りましょう。

撮影モードを変える

夜景を撮る場合、明るさの強さの違いで構図内の明るさのバランスは均一ではありません。また、暗い部分も多いので**P**（プログラム撮影）モードで撮影すると露出がオーバー気味の白っぽい写真になります。まずは、撮影モードを**A**（絞り優先撮影）モードにして撮影してみましょう。絞りは、全体の中間（F8やF11くらい）に設定してシャッター速度はカメラ任せにします。また全体的に明るすぎる写真になる場合が多いので、露出補正を–1や–1.5といった値に補正をしてみましょう。絞りや露出補正値は、**[撮影確認]**の画像で確認しながら変えて撮るのがよいでしょう。長秒時の撮影になると画像にノイズが発生しやすいので、**[ノイズリダクション]**を**[ON]**に設定すると発生するノイズを抑えることができます。

マニュアルフォーカスを使う

被写体が暗くてAF（オートフォーカス）ではピントが合わなかったり、花火のようにピント合わせが間に合わない場合は、フォーカスモードをMF（マニュアルフォーカス）に設定して手動でピントを合わせます。夜景の場合は、レンズのピントリングを回しながら街灯りがはっきり見えているかどうかを確認します。花火の場合は、長焦点レンズでないかぎり無限遠に合わせても良いでしょう。おおよその距離がわかれば、同じくらいの距離にあるものであらかじめピントを合わせておいても構いません。

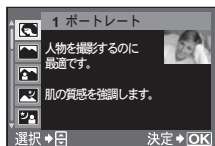
☞「**P**：プログラム撮影」(P 33)、「**A**：絞り優先撮影」(P 34)、「連写／セルフタイマー／リモコン撮影」(P 49)、「フォーカスモード」(P 55)、「ノイズリダクション―長秒時の画像ノイズを軽減する」(P 68)、「撮影後すぐに画像を確認する―撮影確認」(P 87)

シーンモード

撮影シーンや撮影状況に合わせて選択すると、カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。モードダイヤルのシーンモードと違って、ほとんどの機能は変更できません。

1 モードダイヤルを SCENE に設定します。
- シーンメニューが表示されます。

2 △▽でシーンモードを選択します。
- 選択している撮影シーンのサンプル画像に続いて説明が表示されます。

3 OKボタンを押します。
- カメラが撮影モードに入ります。
- 設定変更したいときは、OKボタンを再度押すとシーンメニューが表示されます。

シーンモードの種類

アイコン	モード	アイコン	モード
	1　ポートレート		11　マクロ
	2　風景		12　ネイチャーマクロ
	3　風景＆人物		13　キャンドル
	4　夜景		14　夕日
	5　夜景＆人物		15　打ち上げ花火
	6　チャイルド		16　文書
	7　スポーツ		17　パノラマ
	8　ハイキー		18　ビーチ＆スノー
	9　ローキー		19　水中ワイド
	10　ぶれ軽減		20　水中マクロ

P：プログラム撮影

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定する自動露出モードです。

モードダイヤルを P にします。

- シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度と絞り値をファインダに表示します。シャッターボタンから指を離すと、スーパーコンパネにシャッター速度と絞り値が表示されます。

P モードの絞り値とシャッター速度

Pモードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

プログラムシフト（Ps）

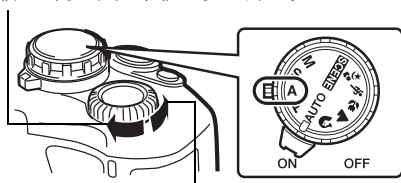
Pモードのときコントロールダイヤルを回すと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを上の図のように変更できます（プログラムシフト）。
プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダやスーパーコンパネの露出モード表示**Ps**が、**P**に変わるまでコントロールダイヤルを回します。または、カメラの電源を一度切ります。フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

A：絞り優先撮影

絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞りを開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。背景のボケ具合は、プレビュー機能により確認することができます。☞「プレビュー機能」（P 37）

絞り値（F値）を小さくしたとき

絞り値（F値）を大きくしたとき

モードダイヤルを A にし、コントロールダイヤルを回して絞り値を設定します。

シャッターボタンを半押ししたときのファインダ内表示

- シャッター速度表示（高速側）が点滅しているときは、露出オーバー（過度）です。絞り込んで（絞り値を大きくして）ください。
- シャッター速度表示（低速側）が点滅しているときは、露出アンダー（不足）です。絞りを開いて（絞り値を小さくして）ください。

こんなときは

絞り値を変更したがシャッター速度の点滅が終わらない：

→ 高速側でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」（P 62）

→ 低速側でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」（P 62）

設定した絞り値での被写界深度を確認したい：

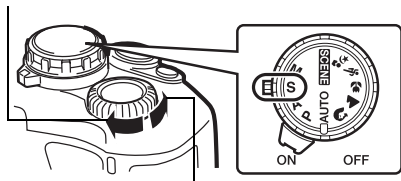
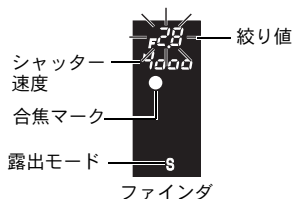
→「プレビュー機能」（P 37）を参照してください。

S：シャッター優先撮影

シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。

シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

モードダイヤルを S にし、コントロールダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。

シャッターボタンを半押ししたときのファインダ内表示

- 絞り値が開放絞り（値がもっとも小さい）で点滅*しているときは、適正露出が得られていません（露出アンダー）。シャッター速度を遅くします。
- 絞り値が最小絞り（値がもっとも大きい）で点滅*しているときは、適正露出が得られていません（露出オーバー）。シャッター速度を速くします。

＊使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。

こんなときは

画像がぶれる：

→ 近接撮影や超望遠撮影では、画像がぶれやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

シャッター速度を変更したが絞り値の点滅が終わらない：

→ 最小絞り（値がもっとも大きい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」（P 62）

→ 開放絞り（値がもっとも小さい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」（P 62）

M：マニュアル撮影

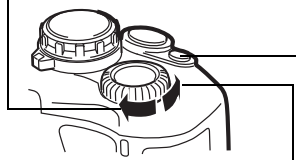
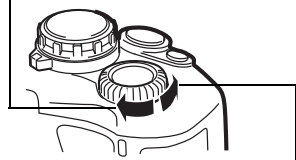
絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。また、天体撮影や打ち上げ花火の撮影などに便利なバルブ（BULB）撮影も可能です。☞「バルブ（BULB）撮影について」（P 37）

モードダイヤルを M にし、コントロールダイヤルを回して設定します。

- シャッター速度　：コントロールダイヤルを回して設定します。
- 絞り値　　　　　：☒ボタンを押しながら、コントロールダイヤルを回して設定します。

- 絞りの設定範囲はレンズにより異なります。
- シャッター速度は1/4000～60"（秒）および**[BULB]**（バルブ）に設定できます。
- ダイヤルを回すごとに、1/3 EVステップで絞り値とシャッター速度が変わります。

☒ボタン

絞りを開きます（F値を小さくする）

絞りを絞ります（F値を大きくする）

- スーパーコンパネに露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、-3EV～+3EVの範囲で表示されます。

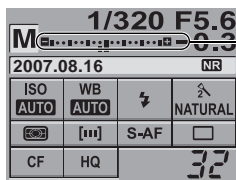
露出アンダー

露出オーバー

適正露出

露出レベルインジケータ

3

撮影機能－撮りたいものに合わせて設定する

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に現れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラはノイズリダクションが働きます。

☞「ノイズリダクション—長秒時の画像ノイズを軽減する」(P 68)

バルブ（BULB）撮影について

→ シャッターボタンを押しているあいだ露光し続けるバルブ撮影が可能です。**M**モードでシャッター速度を**[BULB]**に設定します。また別売のリモコン（RM-1）を使うと、リモコンバルブ撮影ができます。
☞「リモコンによるバルブ撮影」(P 52)

こんなときは

画像がぶれる：

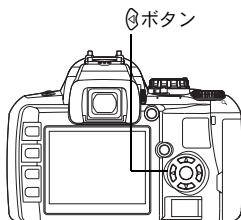
→ シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

プレビュー機能

実際に絞りを動作させて、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。◁ボタンを押してプレビュー機能が働くように、あらかじめメニューで◁ボタンの機能を設定しておく必要があります。

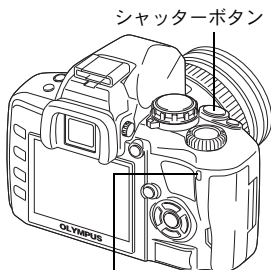
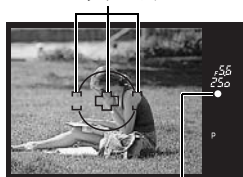
☞「◀ボタン機能」(P 85)

◁ボタンを押すと、設定された絞り値まで絞り込まれます。

- **[◀ボタン機能]**を**[ライブプレビュー]**に設定しているときには、◁ボタンを押すと自動的にライブビューになり、液晶モニタで確認することができます。

ピントが合わないとき（フォーカスロック）

被写体が画面中央にないときなど、オートフォーカスではピントが合わないことがあります。このような場合の簡単な対処方法にフォーカスロックがあります。

1 ピントを合わせたいものに AF フレームを合わせ、シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。

- ピントが固定されます。AF合焦マークと、ピントの合ったAFフレームがファインダで点灯します。
- 合焦マークが点滅したときは、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- スーパーコンパネが消えます。

2 半押しした状態のまま、撮影したい構図に移し全押しします。

- カードアクセスランプが点滅し、画像がカードに記録されます。

被写体のコントラストが弱いとき

明るさが不足している、霧などで被写体がはっきり見えないなどのように、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わない場合があります。被写体と等距離にあり、コントラストのはっきりしたものでフォーカスロックし、そのまま構図を決めて撮影してください。

AE ブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定できるので、逆光や夕景などの適性露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正～－補正～＋補正の順に撮影されます。

例）BKT設定が**[3F 1.0EV]**の場合

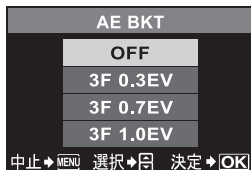
-1.0EV

±0

+1.0EV

補正量：0.3・0.7・1.0
撮影枚数：3 枚

メニュー

MENU ▸ [2] ▸ [AE BKT]
[OFF]/[3F 0.3EV]/[3F 0.7EV]/[3F 1.0EV]

撮影します。

- 単写／連写の設定によって、撮影方法が異なります。☞「連続撮影する」（P 49）

ファインダ

単写の場合
シャッターボタンを全押しするごとに、1枚ずつ露出を変えて撮影します。
- ファインダ内に次の撮影の設定が表示されます。

連写の場合
設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。自動的に露出を変えて撮影します。
- シャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときはスーパーコンパネの**[BKT]**が青色表示されます。

露出モードによる補正の方法

設定している露出モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

Pモード：絞り値とシャッター速度
Aモード：シャッター速度
Sモード：絞り値
Mモード：シャッター速度

こんなときは

補正した露出を中心に AE ブラケット撮影をしたい：

→ 露出補正値を設定した状態で、AE ブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてAEブラケット撮影が行われます。

注意

- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

フラッシュ撮影

フラッシュモード

発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードを設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードは専用フラッシュ（別売）にも適応します。

オート発光 AUTO

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFフレームを合わせて撮影してください。

赤目軽減発光 👁

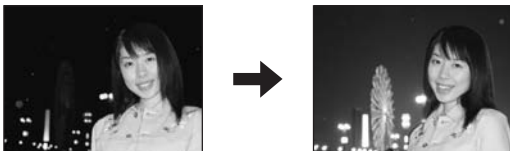
人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、赤目軽減発光に設定すると本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合や個人差などにより、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

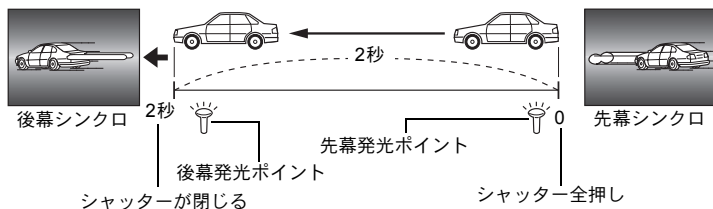
スローシンクロ（先幕シンクロ）⚡SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて

フラッシュは、通常はシャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行われます。

スローシンクロ（後幕シンクロ）⚡SLOW2

シャッターが閉じる直前にフラッシュを光らせるモードです。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。シャッター速度の最長は、撮影モードにより異なります。

シャッター速度が2秒のとき

スローシンクロ（先幕シンクロ）＋赤目軽減発光 SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

強制発光

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意

- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/180より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、専用フラッシュ FL-50やFL-36を使用して、スーパーFP発光モードで撮影してください。☞「スーパー FP発光について」（P 48）

発光禁止

フラッシュは発光しません。
発光禁止でも、内蔵フラッシュをポップアップすればAFイルミネータとして使うことができます。☞「AFイルミネータ」（P 57）

マニュアル発光

内蔵フラッシュを固定した発光量で発光させることができます。フラッシュをマニュアル発光させるときは、被写体までの距離に基づいてレンズのF値を合わせて撮影してください。

発光比	GN：ガイドナンバー（ISO 100相当）
FULL（1/1）	12
1/4	6
1/16	3
1/64	1.5

レンズのF値は以下の式で計算してください。

$$\text{絞り（F値）} = \frac{\text{GN} \times \text{ISO感度係数}}{\text{撮影距離（m）}}$$

ISO 感度係数

ISO感度	100	200	400	800	1600
ISO感度係数	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0

露出モードによる使用可能なフラッシュモード

露出モード	スーパーコンパネの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
AUTO P A *2	AUTO	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光[*1]のとき発光	1/30秒～1/180秒
		オート発光（赤目軽減）			
		強制発光		いつでも発光	60秒～1/180秒
		発光禁止	—	—	—
	SLOW	スローシンクロ（赤目軽減）	先幕シンクロ	暗いとき、逆光[*1]のとき発光	1/30秒～1/180秒
	SLOW	スローシンクロ（先幕シンクロ）			
	SLOW2	スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ		
	FULL	マニュアル発光（FULL）	先幕シンクロ	いつでも発光	60秒～1/180秒
	1/4	マニュアル発光（1/4）			
	1/16	マニュアル発光（1/16）			
	1/64	マニュアル発光（1/64）			
S M		強制発光			
		強制発光（赤目軽減）			
		発光禁止	—	—	—
	SLOW2	強制発光／スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ	いつでも発光	60秒～1/180秒
	FULL	マニュアル発光（FULL）	先幕シンクロ		
	1/4	マニュアル発光（1/4）			
	1/16	マニュアル発光（1/16）			
	1/64	マニュアル発光（1/64）			

*1 専用フラッシュがスーパーFPモードに設定されているとき、通常のフラッシュ発光秒時以上で逆光を判定して発光します。☞「スーパーFP発光について」（P 48）

*2 夜景＆人物モードでは、AUTO、、は、設定できません。

フラッシュモードを設定する

ダイレクトボタン

⚡ ▶ コントロールダイヤル

スーパーコンパネ

OK ▶ ：フラッシュ ▶ OK

内蔵フラッシュを使う

14 mm（35 mmフィルムカメラ換算28 mm）より広角のレンズを使用した場合、フラッシュの光がけられる場合があります。また使用レンズ、距離などの撮影条件によってもけられが発生する場合があります。

1 **⚡ボタンを押して内蔵フラッシュを起こします。**
- 下記のモードの場合、内蔵フラッシュは暗いときには自動的にポップアップして、発光します。
AUTO/ / / / / / / / / /

2 **シャッターボタンを半押しします。**
- フラッシュが発光するときは、⚡（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

3 **シャッターボタンを全押しします。**

こんなときは

フラッシュを自動ポップアップさせないようにしたい：
→メニューの**[自動ポップアップ]**を**[OFF]**にします。☞「自動ポップアップ」（P 84）

フラッシュの発光量補正

フラッシュの発光量を調整します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

MENU ▶ [📷2] ▶ [フラッシュ補正]

◁▷で補正量を設定します。

こんなときは

フラッシュ補正画面をすぐに呼び出したい：
→ ⚡（フラッシュ）ボタンと⊠（露出補正）ボタンを同時に押し続けるとフラッシュ補正画面が表示されます。コントロールダイヤルで設定してください。

注意

- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- フラッシュの発光量は露出補正に連動します。

専用フラッシュ（別売）について

このカメラでは、内蔵フラッシュの他に別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。
カメラとの通信機能があり、TTL-AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。
専用フラッシュの取扱説明書も合わせてご覧ください。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	FL-50	FL-36	FL-20	RF-11	TF-22
調光モード	TTL-AUTO, AUTO, MANUAL, FP TTL AUTO, FP MANUAL		TTL-AUTO, AUTO, MANUAL	TTL-AUTO, MANUAL	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85 mm*時） GN28（24 mm*時）	GN36（85 mm*時） GN26（24 mm*時）	GN20（35 mm*時）	GN11	GN22

＊ カバーできるレンズ焦点距離（35 mmフィルムカメラ換算）

注意

- エレクトロニックフラッシュ FL-40は使用できません。

専用フラッシュを使った撮影

フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

1 ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。

2 専用フラッシュをカメラのホットシューに取り付けます。

- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのロックリングを回して、あらかじめ引込めておいてください。

3 フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの充電ランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は 1/180 秒以下です。

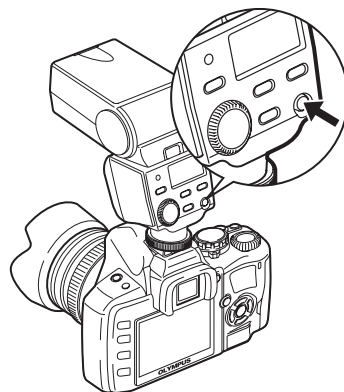
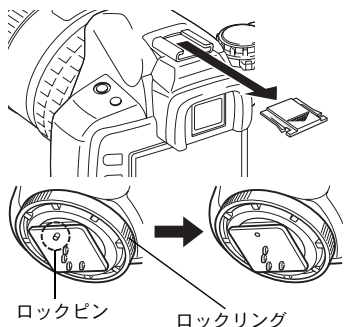
4 フラッシュモードを選択します。

5 フラッシュの調光モードを選択します。

- 通常はTTL-AUTOの使用をおすすめします。

6 シャッターボタンを半押しします。

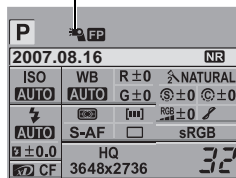
- カメラ・フラッシュ間で、ISO 感度・絞り・シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。

7 シャッターボタンを全押しします。

注意

- 外部フラッシュをホットシューに取り付けているときは、内蔵フラッシュは同時には使えません。

スーパー FP 発光について

専用フラッシュ FL-50 やFL-36ではスーパーFP発光が可能です。通常発光が使用できない高速のシャッター速度で、フラッシュが使用できます。
屋外のポートレート撮影など開放絞りで日中シンクロ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

スーパーコンパネ詳細表示のとき

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュはカメラの撮影モードを**M**にして使用します。使用できる市販のフラッシュの詳細については「使用できる市販のフラッシュ」（P 48）をご覧ください。

1 **ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。**

2 **撮影モードをMにし、絞り値とシャッター速度を設定します。**
- シャッター速度は1/180秒より低速に設定してください。これより早いシャッター速度ではフラッシュは同調しません。
- シャッター速度を遅く設定すると、画像がぶれる可能性があります。

3 **フラッシュの電源を入れます。**
- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 **フラッシュ側の調光の設定に適したISO感度と絞り値にします。**
- フラッシュ側の調光モードの設定方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意
- フラッシュは常に発光します。フラッシュを光らせたくないときは、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。

使用できる市販のフラッシュ

1) フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
2) フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。
3) レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください。レンズの焦点距離に約2倍した数字が35 mmフィルム用レンズの焦点距離になります。
4) 専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。

連写／セルフタイマー／リモコン撮影

各機能を設定する

ダイレクトボタン

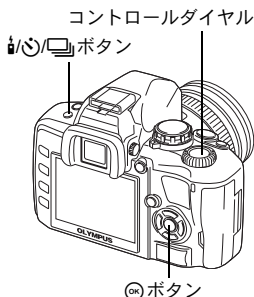
/ / ▶ コントロールダイヤル

スーパーコンパネ

OK ▶ ：// ▶ OK

• //ボタンを押して設定するときは、ファインダ内にも情報が表示されます。

連写の場合　セルフタイマーの場合　リモコン撮影の場合

1-d：単写
b-d：連写
12SELF：12秒セルフタイマー
2SELF：2 秒セルフタイマー
0rc-d：0秒
2rc-d：2秒

連続撮影する

単写　一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。

連写　シャッターボタンを押している間、約3コマ／秒で約7枚以上連続撮影できます（JPEG時）。ピント、露出は、最初の1コマで固定されます（S-AF, MF時）。

• 連写のときは、シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指を離すと連写は止まります。

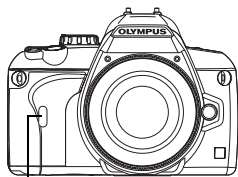
注意

• 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

セルフタイマー撮影をする

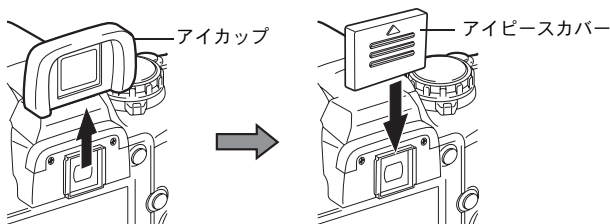
シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。

シャッターボタンを全押しします。

- 撮影されます。
- **12s**の場合：セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- **2s**の場合　：セルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、/ / ボタンを押します。

注意

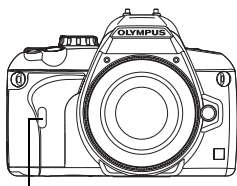
- カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

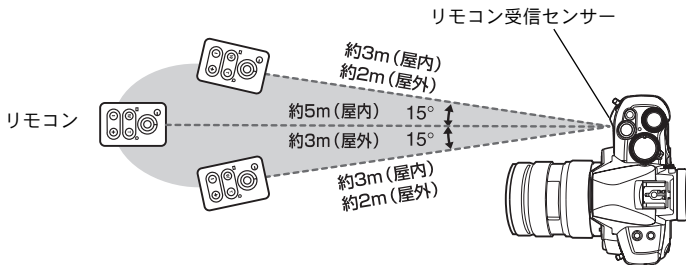
アイピースカバー

ファインダから顔を離して撮影するとき、ファインダに光が入らないように、アイピースカバーをファインダに取り付けます。アイカップを図のように外してからアイピースカバーを取り付けてください。別売のアイカップに交換するときも同様に取り付けてください。

リモコン撮影をする

別売のリモコン（RM-1）を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターの切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。またリモコンバルブ撮影も可能です。

カメラを三脚などでしっかりと固定し、リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

- **0s**の場合：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。
- **2s**の場合：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信窓に太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。

こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない：

→ リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい：

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。▯/◌/▭ボタンを押して、▭（単写）などに設定してください。

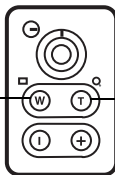
カメラのシャッターボタンを使って撮影したい：

→ リモコンモードでも、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

! 注意

- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

リモコンによるバルブ撮影

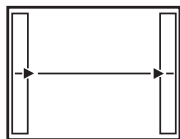
モードダイヤルを**M**にセットし、シャッター速度を**[BULB]**に設定します。

パノラマ撮影

OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードを使って、パノラマ撮影を簡単に楽しむことができます。被写体の端が重なるように撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Master（付属のCD-ROM）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。
最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

- 重なり合う画像の共通部分には、できるだけ目印となる被写体を入れて撮影してください。

1 **モードを設定します。☞「シーンモード」（P 32）**
- ライブビューに切り換わります。

2 **でつなげる方向を指定し、被写体の端が重なるように撮影します。**

：次の画像を右につなげます。
：次の画像を左につなげます。
：次の画像を上につなげます。
：次の画像を下につなげます。

- 被写体が重なるように構図を変えながら撮影します。
- ピント、露出などは1枚目で決定されます。
- 10枚撮り終わると （警告）マークが表示されます。
- 1コマ目の撮影前に ボタンを押すと、シーンモードの選択メニューに戻ります。
- 撮影の途中で ボタンを押すと、一連のパノラマ撮影を終了し、続けて次のパノラマ撮影ができます。

注意

- OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードをカメラにセットしていないときは、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影時には、前に撮影した位置合わせ用の画像は残りません。画像に表示される枠や目印となる被写体を目安に、重なり合う画像の端が枠の中に重なるように構図を設定してください。

AF フレームの選択 [▪▪▪]

通常はファインダ内の3ケ所のAFフレームで被写体までの距離を測定し、最適なポイントを選択します。1つのAFフレームだけを選択することもできます。

[オート]または**[▪▪▪]**（オート）
3つのAFフレームを使ってピントを合わせます。

[▪] 左の AF フレームを使ってピントを合わせます。

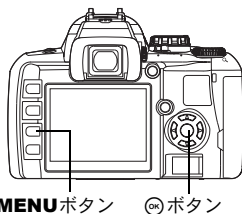
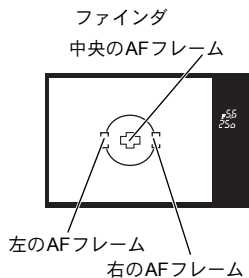
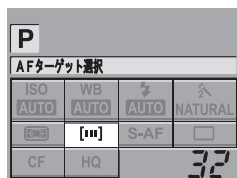
[▪] 中央の AF フレームを使ってピントを合わせます。

[▪] 右の AF フレームを使ってピントを合わせます。

スーパーコンパネ

OK ▸ 十字ボタン：**AF ターゲット選択** ▸ OK

メニュー

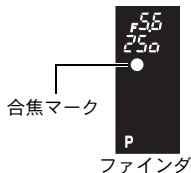
MENU ▸ [撮影2] ▸ [▪▪▪]

フォーカスモード

フォーカスモードには以下の3つのモードがあります。
S-AFとMF、C-AFとMFを組み合わせて撮影することもできます。☞「S-AFモードとMFモードの併用（S-AF+MF）」（P 56）、「C-AFモードとMFモードの併用（C-AF+MF）」（P 57）

S-AF（シングル AF）

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。

C-AF（コンティニュアス AF）

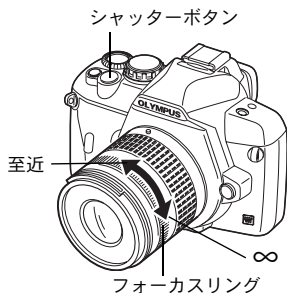
シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。

シャッターボタンを半押しし続けます。

- 被写体にピントが合い、固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- ピントが合ってもAFフレームは点灯しません。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。

MF（マニュアルフォーカス）

ファインダをのぞきながら、任意の位置に手動でピントを合わせることができます。

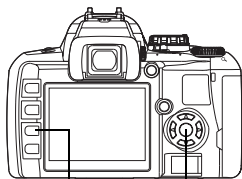
フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。

フォーカスエイド

フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。3点のAFフレームを選択している場合は、中央のAFフレームでのピントが選択されます。

スーパーコンパネ

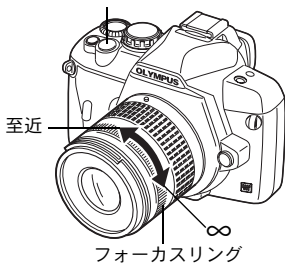
OK ▸ ✥：**AF 方式** ▸ OK
[S-AF]/[C-AF]/[MF]/[S-AF+MF]/[C-AF+MF]

メニュー

MENU ▸ [📷2] ▸ [AF 方式]

S-AF モードと MF モードの併用（S-AF+MF）

S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。シャッターボタンを押していないときは、MF動作ができます。

- シャッターボタンを半押しして AF が合ったら、フォーカスリングを回してピントの微調整ができます。シャッターボタンを半押ししないときも、フォーカスリングを回して微調整できます。

注意

- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押し直すと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

C-AF モードと MF モードの併用（C-AF+MF）

あらかじめフォーカスリングでピント合わせをしておいて、シャッターボタンを半押しするとC-AFモードの動作をします。
- シャッターボタンを押している間は、MFモードは動作しません。
- シャッターボタンを押していないときは、MFモードが操作できます。

こんなときは

C-AF モードでも手動でピントの微調整をしたい：

→ AEL/AFLモード設定により、**AEL**/**AFL**ボタンでC-AFが動作するように設定できます。☞「AEL/AFLモード」（P 83）

注意
- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押し直すと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

AF イルミネータ

内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させることができ、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピントが合います。この機能を使うにはフラッシュを起こしておきます。

MENU ▸ [Ÿ1] ▸ [AF イルミネータ]

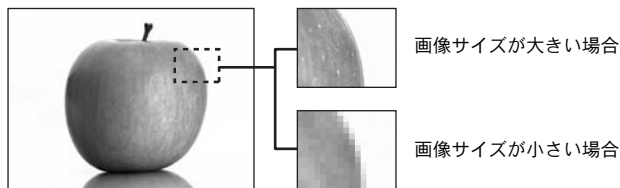
画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像（ピクセル）サイズについては「画質モード一覧」（☞ P 124）の表をご覧ください。

画質モードの種類

画質モードでは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを選択できます。画像はピクセル（点）の集まりでできていて、ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなります。また圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

画像サイズが大きい場合

画像サイズが小さい場合

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

用途	画像サイズ	画質（圧縮率）			
		低圧縮 1/2.7	高圧縮 1/4	高圧縮 1/8	高圧縮 1/12
プリントサイズに合わせて選択	3648 × 2736	SHQ	—	HQ	—
	3200 × 2400 2560 × 1920 1600 × 1200 1280 × 960 1024 × 768	SQ			
小さいプリントやホームページ用	640 × 480				

RAWデータについて

ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。パソコンで画像として表示するには、OLYMPUS Masterを使います。他のカメラで再生したり、一般のソフトウェアでの表示、プリント予約はできません。
このカメラで画質モードをRAWデータに設定して撮影した画像を編集することができます。☞「静止画編集」(P 75)

画質モードの選択方法

スーパーコンパネ

OK ▶ ⊕：画質モード ▶ OK

メニュー

MENU ▶ [📷] ▶ [画質モード]
[HQ]/[SQ]/[RAW+SHQ]/[RAW+HQ]/[RAW+SQ]/[RAW]/[SHQ]

SQ設定 — 画像サイズと圧縮率を設定する

[SQ]の画像サイズや圧縮率を変更できます。この設定が**[画質モード]**の設定に反映されます。

メニュー

MENU ▶ [🔧1] ▶ [SQ設定]

1) ⊕で画像サイズを設定します。
   [3200 × 2400]/[2560 × 1920]/[1600 × 1200]/[1280 × 960]/[1024 × 768]/[640 × 480]
2) ⊕で圧縮率を設定します。
   [1/2.7]/[1/4]/[1/8]/[1/12]

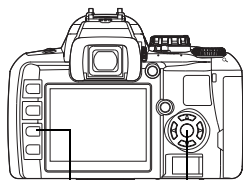
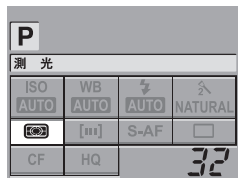
測光方式を変える — 測光モード

このカメラはデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光など5つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

スーパーコンパネ

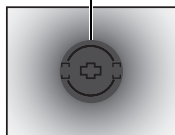
OK ▶ ✣：測光 ▶ OK
[ESP]/[中央重点]/[•]/[•HI]/[•SH]

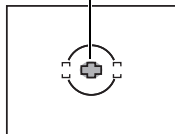
メニュー

MENU ▶ [撮影2] ▶ [測光]

[ESP] デジタル ESP 測光

画面を49分割測光し、それぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。通常はこのモードをおすすめします。AF連動機能を**[AF連動ON]**にすると、AFでピントを合わせたフレームを中心に測光するパターンが稼動します。

[中央重点] 中央重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。

[•] スポット測光

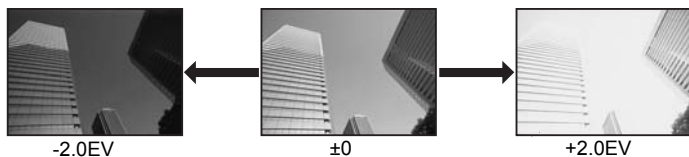
画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。

[•]HI スポット測光ハイライトコントロール

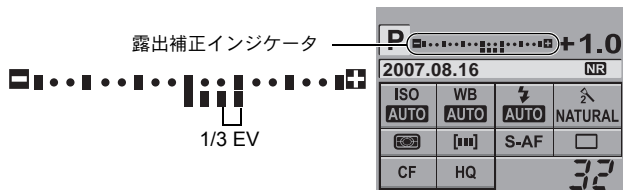
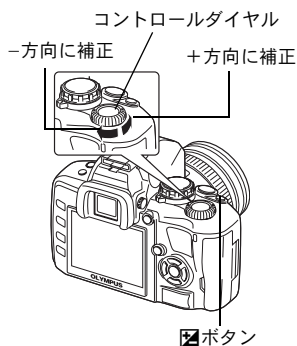
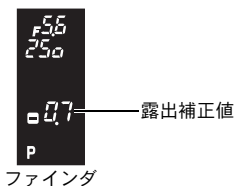
測光したポイントの露出がオーバーになるように設定します。白い被写体を白く表現したいときに使います。
測光範囲はスポット測光と同じです。

[•]SH スポット測光シャドウコントロール

測光したポイントの露出がアンダーになるように設定します。黒い被写体を黒く表現したいときに使います。
測光範囲はスポット測光と同じです。

画像の明るさを変える — 露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に−に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。

（露出補正）ボタンを押しながら、コントロールダイヤルで補正値を設定します。

- 補正ステップは1/3EVです。

- 補正範囲が露出補正インジケータをオーバーしているときは、インジケータの左右端に赤い◀▶が表示されます。
- 露出補正が0のときは、露出補正インジケータは表示されません。

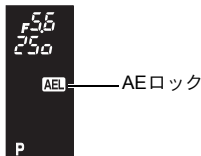
注意

- M、SCENEでは、露出補正はできません。

あらかじめ露出を固定する ―AE ロック　AEL

AELボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL**ボタンを押して露出のみ固定することができます。

測光値を固定したいところで AEL ボタンを押すと、露出が固定されます。AEL ボタンを押している間は露出が固定されますので、そのままシャッターボタンを押します。

- **AEL**ボタンを離すと、AEロックが解除されます。
- カスタム設定により、**AEL** ボタンから指を離しても、AEロックが解除されないように設定することもできます。☞「AEL/AFL MEMO」（P 84）

ファインダ

3

撮影機能―露出・色・画像

明るさに合わせた設定 ―ISO 感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところでの撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。
[AUTO]の場合は、撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。ただし、**S**、**M**モードでフラッシュ非発光時はISO100に固定されます。

スーパーコンパネ

(OK) ▸ ✣ : ISO 感度 ▸ (OK)
[AUTO]、[100]～[1600]

メニュー

MENU ▸ [📷1] ▸ [ISO 感度]

画像の色合いを調整する — ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。この機構をホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、4つの設定があります。

オートホワイトバランス

自動的に画像の白い部分を判断して全体の色のバランスを調節します。
通常はこのモードをお使いください。

プリセットホワイトバランス

天気、電球・蛍光灯別に7種類の色温度がプリセットされています。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。

カスタムホワイトバランス

プリセットホワイトバランスの値の1つを、あらかじめ設定したい色温度に変更して使用することができます。
☞「オート／プリセット／カスタムホワイトバランスの設定」（P 64）

ワンタッチホワイトバランス

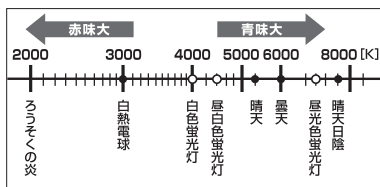
カメラを白紙などの白い物に向けて、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。
☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P 66）

色温度について

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。

• 各光源として設定された色温度は目安です。

これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。

3
撮影機能－露出・色・画像

オート／プリセット／カスタムホワイトバランスの設定　WB

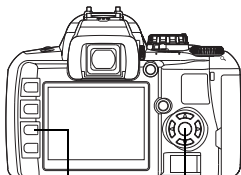
ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

スーパーコンパネ

OK ▶ ：**ホワイトバランス** ▶ OK
[AUTO]/[☼]/[⌂]/[☁]/[電球]/[蛍光灯1]/[蛍光灯2]/[蛍光灯3]/[ワンタッチ]/[CWB]

- CWB（カスタムホワイトバランス）は **[CWB]** を選び、（露出補正）ボタンを押しながらコントロールダイヤルを回して設定します。

メニュー

MENU ▶ [撮影1] ▶ [WB モード]

WBモード	適した撮影シーン
AUTO	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）。通常はこのモードをお使いください。
☼ 5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
⌂ 7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
☁ 6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
電球 3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯1 4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯2 4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍光灯3 6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
ワンタッチ	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。 ☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P 66）
CWB	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は3000Kに設定されています。設定により表示は変わります。

こんなときは

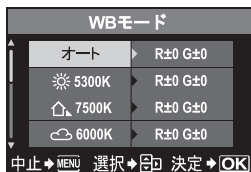
白くないものまで白くなった：

→ オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

WB 補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

1 **MENU ▸ [撮影] ▸ [WBモード]**

2 十字ボタンでWB補正したいホワイトバランスモードを選択します。

3 十字ボタンで補正方向を選択します。

R-B　赤—青
G-M　緑—赤紫

• 各補正方向を組み合わせて設定できます。

R-B 方向で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、左ボタンを押すたびに赤味がかり、右ボタンを押すたびに青味がかった画像になります。

G-M 方向で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、上ボタンを押すたびに、緑の色味が増し、下ボタンを押すたびに赤紫がかった画像になります。

• R、B、G、Mの各色方向で、それぞれ7段階の補正が可能です。

4 OKボタンを押します。

• 補正値が決定されます。

こんなときは

補正したホワイトバランスを確認したい：

→ 手順 3 で補正値を設定した後、試し撮りをするために被写体にカメラを向けます。**AEL** ボタンを押すと、設定したホワイトバランスの条件で、撮影したサンプル画像が表示されます。

すべてのホワイトバランスモードを一括して補正したい：

→ 「全WBモード補正」（P 84）を参照してください。

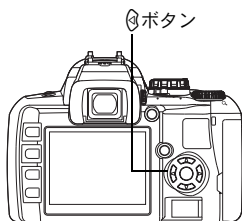
ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白い紙などにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。

あらかじめ**[◀ボタン機能]**を**[ワンタッチWB]**に設定しておきます。（☞ P 85）

1 **カメラを白い紙に向けます。**
- 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2 **◀ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。**
- ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

3 **[実行]を選択して、OKボタンを押します。**
- ホワイトバランスが登録されます。
- 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

こんなときは

シャッターボタンを押したら、[不適切なデータです 撮り直してください] と表示された：

→ 白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。絞り、シャッター速度などの撮影条件を変えて、再度、手順1からやり直してください。

仕上がりモード

画像の色調を、撮影目的に応じて選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。

MENU ▸ [📷1] ▸ [仕上がり]

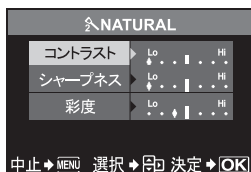
仕上がり具合に合わせて調整できるパラメータが分類されています。

- **コントラスト／シャープネス／彩度**
  - **[VIVID]**：色鮮やかに仕上げます。
  - **[NATURAL]**：自然な色合いに仕上げます。
  - **[FLAT]**：素材性を重視した仕上がりになります。
- **コントラスト／シャープネス／フィルター効果／調色**
  - **[モノトーン]**：モノクロ調に仕上げます。

それぞれのパラメータの内容は次の通りです。

- **[コントラスト]**：明暗の差
- **[シャープネス]**：鮮鋭さ
- **[彩度]**：色の鮮やかさ
- **[フィルター効果]**：フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。
  - **[N:無し]**：通常の白黒画像になります。
  - **[Ye:黄]**：自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。
  - **[Or:オレンジ]**：青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。
  - **[R:赤]**：青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
  - **[G:緑]**：赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。

- **[調色]**：白黒画像に色味をつけます。
  - **[N:無し]**：通常の白黒画像になります。
  - **[S:セピア]**：セピア
  - **[B:青]**：青味
  - **[P:紫]**：紫味
  - **[G:緑]**：緑味

調整したパラメータは各仕上がり項目ごとに記録されます。スーパーコンパネでは仕上がりの項目を選択することができます。

階調

標準階調以外に2種類の階調を選択できます。
　ハイキー（H）：明るい被写体の階調を広げます。
　ローキー（L）：暗い被写体の階調を広げます。
　標準　　　　：通常は**[標準]**に設定してください。

ハイキー
ハイライト部の多い被写体に最適です。

ローキー
シャドウ部の多い被写体に最適です。

MENU ▶ [撮影] ▶ [階調]

注意

- **[ハイキー]**および**[ローキー]**の階調ではコントラスト調整は反映されません。

ノイズリダクション ― 長秒時の画像ノイズを軽減する

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。遅いシャッター速度では、ノイズリダクションが働いて、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。

OFF

ON

MENU ▶ [撮影] ▶ [ノイズリダクション]
[OFF]/[ON]

- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- 処理中は、カードアクセスランプが点滅します。カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。
- 処理中は、ファインダ内で busy と表示されます。

注意

- SCENEモードを[icon]に設定していると、**[ノイズリダクション]**は**[ON]**に固定されます。
- **[連写アイコン]**（連写）設定時は、**[ノイズリダクション]**は自動的に**[OFF]**になります。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

ノイズフィルタ — ノイズフィルタのレベルを設定する

ノイズの処理レベルを選択できます。通常は**[標準]**に設定し、高感度撮影では**[強]**に設定することをおすすめします。

MENU ▸ [撮影1] ▸ [ノイズフィルタ]

[OFF]/[弱]/[標準]/[強]

注意

- **[強]**設定時、連続撮影はできません。

カラー設定 — 記録する画像の色調を設定する

撮影した画像を、モニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。☞「ファイルネーム」（P 86）

Pmdd0000.jpg
- P : sRGB
- _ : Adobe RGB

[sRGB]	Windowsの標準の色空間。
[Adobe RGB]	Adobe Photoshopで設定できる色空間。

MENU ▸ [設定2] ▸ [カラー設定]

低振動モード

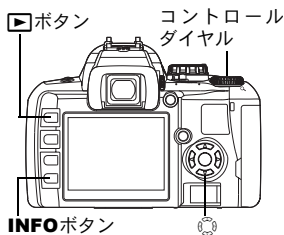
ミラーアップ後、少し時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラぶれを最小限に抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影など、ミラーアップのショックが気になる場面で使います。

MENU ▸ [撮影2] ▸ [低振動モード]

[OFF]/[1秒]～[30秒]

1コマ再生／クローズアップ再生

画像を見るための基本的な手順は、以下の通りです。
撮影した画像を見たり、編集する方法はいろいろありますが、どの方法も以下の手順1の操作を行って、各再生機能を操作します。

1 **(再生)ボタンを押します。(1コマ再生)**
- 最後に撮影された画像が表示されます。
- 1分以上何も操作しないと、カメラは液晶モニタを消灯して動作を停止します。その後何も操作しないと4時間後に、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れ直してください。

2 **で表示したい画像を選択します。コントロールダイヤルを側に回して、クローズアップ再生することができます。**

（1コマ再生）

（クローズアップ再生）

を押して、クローズアップ位置を変更できます。

：10コマ前の画像を表示
：10コマ先の画像を表示
：次の画像を表示
：1コマ前の画像を表示

INFOボタンを押す

（クローズアップ位置再生）

を押して、クローズアップ位置の表示を移動できます。

INFOボタンを押す

（クローズアップ再生）

を押して、クローズアップのままコマ送りできます。

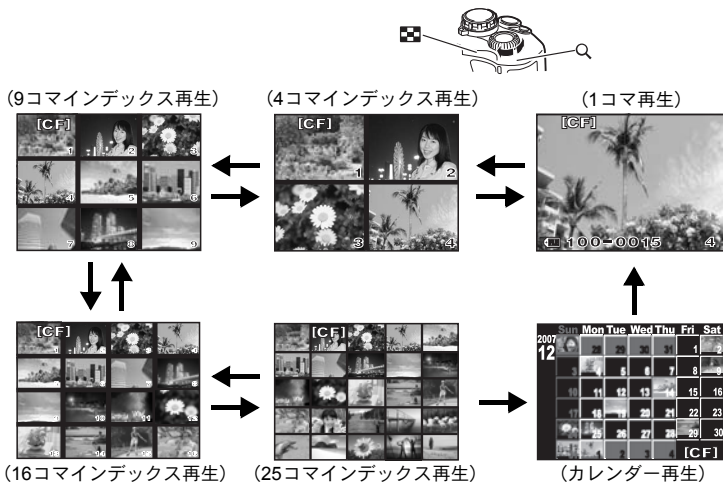
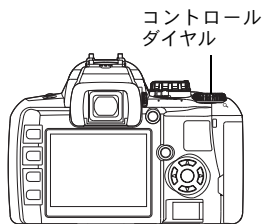
- 再生を終了するときは、再度、ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影に戻ります。

インデックス再生／カレンダー再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

1 コマ再生中に、コントロールダイヤルを 側に回すたびにコマ数が 4、9、16、25 コマと変化します。

：前のコマへ移動
：次のコマへ移動
：上のコマへ移動
：下のコマへ移動

• 1 コマ再生に戻るにはコントロールダイヤルを 側に回します。

カレンダー再生について

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示することができます。同じ日付に複数の画像がある場合は、その日最初に撮影された画像が表示されます。
で日付を選択し ボタンを押すと、選択した日付の画像が1コマ再生されます。

情報表示

INFO

画像の詳細情報を表示することができます。
また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。

INFOボタン

選択したい情報が表示されるまで、INFO（情報表示）ボタンを繰り返し押します。

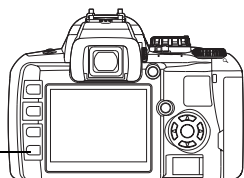
- この設定は記憶され、次回表示する際も同じ情報が表示がされます。

画像のみ

情報表示1

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・ファイル番号を表示

情報表示2

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・画像サイズ・圧縮率・日時・ファイル番号を表示

***ヒストグラムの活用**

ヒストグラムの右端付近が著しく突出した場合は、白トビの可能性があり、左端付近が著しく突出した場合は、黒つぶれの可能性があります。露出を補正するか、再度撮影してください。

ハイライト表示

撮影情報

総合表示

ヒストグラム*

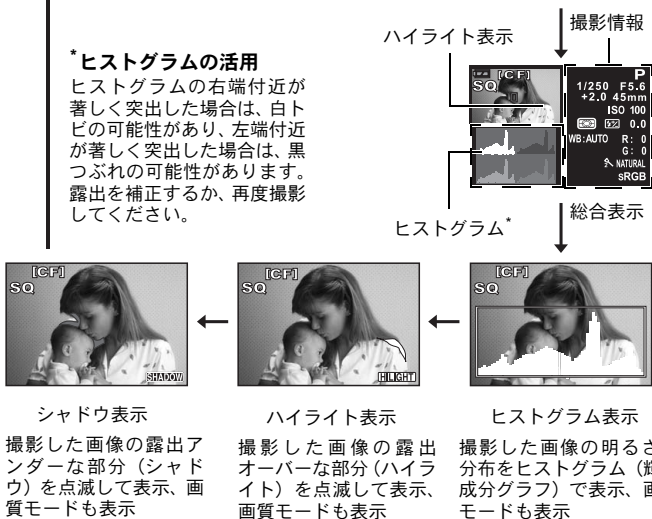
シャドウ表示

撮影した画像の露出アンダーな部分（シャドウ）を点滅して表示、画質モードも表示

ハイライト表示

撮影した画像の露出オーバーな部分（ハイライト）を点滅して表示、画質モードも表示

ヒストグラム表示

撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示、画質モードも表示

画像を連続自動再生する（スライドショー）

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約5秒間ずつ表示されます。インデックス表示で自動再生することができます。同時に表示できるコマ数は1、4、9、16、25コマから選択できます。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [自動再生]**

2 **で設定します。**
[1] 1コマ表示/[4] 4コマ表示/[9] 9コマ表示/[16] 16コマ表示/[25] 25コマ表示

3 **ⓄⓀボタンを押すと自動再生がスタートします。**

4 **ⓄⓀボタンを押すと停止します。**

4を選択したとき

注意

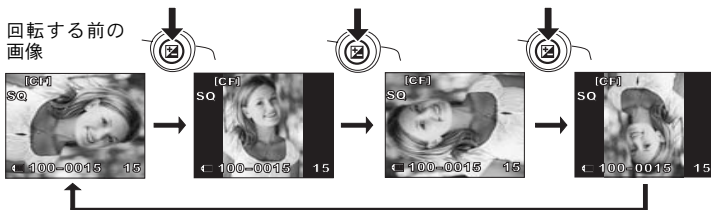
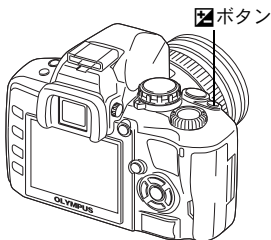
- 自動再生を30分続けると、カメラの電源が自動的に切れます。

回転再生

1コマ再生中に、撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。カメラを回転させても、自動的に正しい方向で画像を見ることができます。

MENU ▸ [▶] ▸ [回転再生]

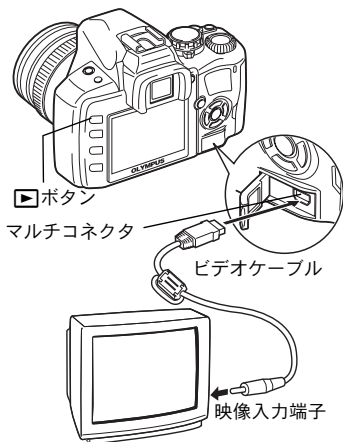
[OFF]/[ON]

- **[ON]**に設定すると、縦位置で撮影した画像を再生したときに自動的に回転して表示します。また、ボタンを押して画像を回転して表示することもできます。
- 回転表示した画像は、カードに記録されます。

テレビで画像を再生する

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

1 カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。

2 テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 カメラの電源を入れ、▶（再生）ボタンを押します。

注意

- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください。☞「TVにつなぐ前に」（P 89）
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。

静止画編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。画像のデータ形式によって、可能な編集が決定します。プリント可能なファイルはJPEGです。RAWファイルは、そのままではプリントできません。プリントする場合はRAW編集機能を使って望みの画質のJPEGファイルに編集しましょう。

RAW データ形式で記録した画像の編集

RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、JPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。
この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。目的に合わせてあらかじめカメラの設定を変更しておきます。

JPEG 形式で記録した画像の編集

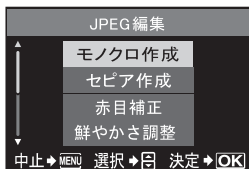
[モノクロ作成]	白黒に変換します。
[セピア作成]	セピア色に変換します。
[赤目補正]	フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。
[鮮やかさ調整]	画像の色をより鮮やかにします。
[リサイズ]	画像サイズを1280 × 960、640 × 480、または320 × 240に変換します。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [編集]**

2 **◁▷で画像を選択します。OKボタンを押します。**

- 画像のデータ形式をカメラが認識します。
- 他の画像を編集するときは、◁▷で画像を選択します。
- RAW+JPEG で記録した画像は、どちらのデータを編集するかを選択する画面が表示されます。
- 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

データ形式をここで確認します。
RAWまたはSHQ、HQ、SQ（= JPEG）

3 画像のデータ形式によって、表示される画面が変わります。編集するデータを選択し、各設定項目の手順を行ってください。

JPEGデータ形式の画像を編集する場合

[モノクロ作成]/[セピア作成]/[赤目補正]/[鮮やかさ調整]/[リサイズ]

RAWデータ形式の画像を編集する場合

RAW編集による画像はカメラの設定に基づいて生成されます。目的に合わせてカメラの設定をしてから実行してください。

• 編集した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

注意

• 画像によっては赤目補正できないことがあります。また、目以外の部分が補正されることがあります。
• 次の場合はリサイズできません。
RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
• **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。

画像のコピー

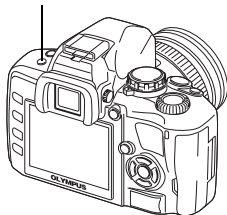
xD- ピクチャーカードとコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。選択されているカードがコピー元になります。
☞**[記録カード選択]**（P 117）

全コマコピー

1 **MENU** ▸ **[▶]** ▸ **[全コマコピー]**
2 ▷を押します。
3 △▽で**[実行]**を選択します。
4 Ⓞを押します。

選択コマコピー

1 コピーしたい画像を表示して、Ⓞ ボタンを押します。
- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度Ⓞボタンを押します。

2 ✥ を押してコピーしたい次の画像を表示して、Ⓞボタンを押します。
3 コピーする画像を選択し終えたら、**COPY/**凸（コピー）ボタンを押します。
4 △▽で**[実行]**を選択し、Ⓞボタンを押します。
- インデックス再生中でも操作できます。

1 コマコピー

1 コピーしたい画像を表示して、**COPY/**凸（コピー）ボタンを押します。
2 △▽で**[実行]**を選択し、Ⓞボタンを押します。

画像にプロテクトをかける — 誤消去防止

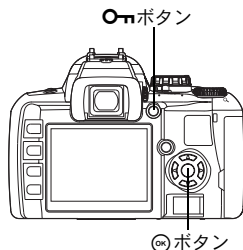
残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 コマプロテクト

プロテクトをかけたい画像を再生して、O┯（プロテクト）ボタンを押します。

- 画面右上に[O┯]（プロテクトマーク）が表示されます。

プロテクトを解除するには

プロテクトされている画像を再生しO┯ボタンを押します。

選択コマプロテクト

1コマ再生またはインデックス再生で、複数画像を選択して一度にプロテクトをかけることができます。

1 プロテクトをかけたい画像を表示してOKボタンを押します。

- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。
- インデックス再生時は、十字ボタンを押してプロテクトしたい画像を選択して、OKボタンを押します。

2 十字ボタンを押してプロテクトしたい次の画像を表示して、OKボタンを押します。

3 プロテクトする画像を選択し終えたら、O┯（プロテクト）ボタンを押します。

全プロテクト解除

複数のプロテクトされている画像を一度に解除できます。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [全プロテクト解除]**

2 △▽で**[実行]**を選択し、OKボタンを押します。

! 注意

- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。（☞ P 117）
- プロテクトされた画像は回転再生できません。

4 再生機能

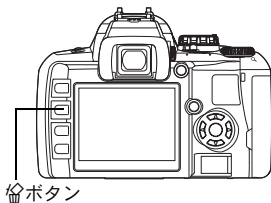
画像を消去する

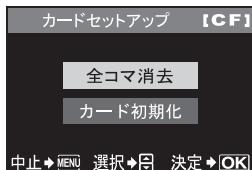
撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去および選択したコマを消去する選択コマ消去があります。

注意

- RAW+JPEGで記録した画像は、1コマ消去ではJPEGの画像を消去してRAWのみ残します。全コマ消去、選択コマ消去では、RAW・JPEG両方の画像が同時に消去されます。
- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクトをかける―誤消去防止」(P 78)

1 コマ消去

1 消去したい画像を再生します。
2 🗑（消去）ボタンを押します。
3 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

全コマ消去

1 **MENU** ▸ [▶] ▸ [カードセットアップ]
2 △▽で[全コマ消去]を選択し、OKボタンを押します。

3 **で[実行]を選択し、OKボタンを押します。**
- 全コマ消去が実行されます。

選択コマ消去

1コマ再生またはインデックス再生で、複数画像を選択して一度に消去することができます。

1 **消去したい画像を表示してOKボタンを押します。**
- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。
- インデックス再生時は、を押して消去したい画像を選択して、OKボタンを押します。

2 **を押して消去したい次の画像を表示して、OKボタンを押します。**

3 **消去する画像を選択し終えたら、（消去）ボタンを押します。**

4 **で[実行]を選択し、OKボタンを押します。**

4
再生機能

カスタムリセット設定

このカメラでは、変更した設定は、電源を切ってもリセットされません。ただし、出荷時の設定に戻す**[リセット]**と、あらかじめ登録した設定にリセットする**[リセット１]**・**[リセット2]**が用意されています。**[リセット１]**・**[リセット2]**には、登録時のカメラの設定内容が登録されます。

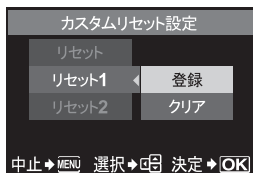
MENU ▸ [📷1] ▸ [カスタムリセット設定]

[リセット**]/[**リセット**1]/[**リセット**2]**

• すでに登録している場合、**[**リセット**1]** / **[**リセット**2]**の選択肢には**[登録]**と表示されます。

リセット内容の登録先

1 **[**リセット**1]** / **[**リセット**2]**いずれに登録するかを選択し、▷ボタンを押します。

2 **[登録]**を選択して、OKボタンを押します。
• 登録を解除する場合は**[**クリア**]**を選択します。

リセット操作

[リセット**1]**または**[**リセット**2]**の登録内容にリセットしたり、出荷時の設定に戻します。

[リセット**]**：カメラを出荷時の設定に戻します。
[リセット**1]/[**リセット**2]**：
登録した内容にリセットします。

1 **[**リセット**]** / **[**リセット**1]** / **[**リセット**2]**いずれかを選択し、OKボタンを押します。

2 △▽で**[実行]**を選択し、OKボタンを押します。

登録可能な機能と初期設定にリセットできる機能

機能	初期設定	カスタムリセットの登録可否
仕上がり	NATURAL	✓
階調	標準	✓
画質モード	HQ	✓
露出補正	±0	✓
ノイズフィルタ	標準	✓
ノイズリダクション	ON	✓
WBモード	オート	✓
ISO感度	オート	✓
測光	[icon]	✓
フラッシュモード	オート発光*1	✓
フラッシュ補正	±0	✓
[icon]/[icon]/[icon]	[icon]	✓
AF方式	S-AF	✓
[icon]	オート	✓
AE BKT	OFF	✓
低振動モード	OFF	✓
再生モード	1コマ再生（情報表示なし）	—
全WBモード補正	±0	—
SQ設定	1280x960, 1/8	✓
自動ポップアップ	ON	✓
AEL/AFLモード	mode1*2	✓
AEL/AFL MEMO	OFF	✓
AEL測光モード	測光モードに連動	✓
[icon]ボタン機能	OFF	✓
AFイルミネータ	ON	✓
LVブースト	OFF	✓
罫線表示	OFF	✓
日時設定	2007.01.01 00:00	—
記録カード選択	CF	—
ファイルネーム	オート	—
モニタ調整	0	✓
[icon]（言語選択）	日本語	—
ビデオ出力	NTSC	—
ビープ音	ON	✓
撮影確認	5秒	✓
スリープ時間	1分	✓
バックライト時間	8秒	✓
USB接続モード	オート	—
カラー設定	sRGB	✓
ピクセルマッピング	—	—
クリーニングモード	—	—
[icon][icon]/[icon][icon]	DIAL[icon][icon]	—
バージョン	—	—

✓：登録可　—：登録不可
*1：設定している露出モードによって、初期設定が変わります。
*2：設定しているフォーカスモードによって、初期設定が変わります。

AEL/AFL モード

シャッターボタンでオートフォーカス動作や測光を行う代わりに、**AEL**ボタンを押してオートフォーカス動作や測光を行うことができます。以下のような使い方ができます。

- シャッターを切る構図とは違うところでピントを合わせたい。
- シャッターを切る構図とは違うところで測光して露出を固定したい。

シャッターボタンを押したときの動作と組み合わせてボタンの機能を選択できます。それぞれのフォーカスモードで**[mode1]**または**[mode2]**を選択します。

MENU ▸ [ ] ▸ [AEL/AFL モード]
[S-AF]/[C-AF]/[MF]

S-AF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AELボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode1	固定	固定	―	―	―	固定
mode2	―	固定	―	―	固定	―

C-AF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AELボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode1	ピント合わせ開始	―	固定	固定	―	固定
mode2	―	固定	固定	―	ピント合わせ開始	―

MF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AELボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode1	―	固定	―	―	―	固定
mode2	―	固定	―	―	S-AF	―

その他の機能設定

AEL/AFL MEMO

AEL（AEロック）ボタンを押すと露出の固定と保持ができます。

MENU ▶ [ꕙ1] ▶ [AEL/AFL MEMO]

[ON]　：**AEL** ボタンを押すと露出を固定して保持します。もう一度押すと保持を解除します。
[OFF]：**AEL**ボタンを押している間だけ露出を固定します。

AEL 測光モード

AEL（AEロック）ボタンを押して露出を固定するときの測光方式を設定します。

MENU ▶ [ꕙ1] ▶ [AEL 測光モード]

[オート]/[ⓞ]/[⊡]/[⊡HI]/[⊡SH]
• **[オート]**は**[測光]**モードで選択されているモードで測光します。

全 WB モード補正

ホワイトバランスの各モードを一括して同じ値に補正します。

MENU ▶ [ꕙ1] ▶ [全 WB モード補正]

[ALL SET]　　:すべてのWBモードを一括して同じ値に補正します。
[ALL CLEAR]　:すべてのWB補正値を一括して0にします。

[ALL SET] を選択した場合

1) ◁▷で補正方向を選択します。
R-B 赤―青／G-M 緑―赤紫
2) △▽で補正します。「WB補正」（☞ P 65）
• 補正したホワイトバランスを確認できます。

[ALL CLEAR] を選択した場合

1) △▽で**[実行]**を選択します。

自動ポップアップ

AUTOやシーンモードでは、内蔵フラッシュは暗いときや逆光のときに自動的にポップアップします。
内蔵フラッシュが自動的にポップアップしないように設定できます。

MENU ▶ [ꕙ1] ▶ [自動ポップアップ]

[ON]　：内蔵フラッシュが自動的にポップアップします。
[OFF]：内蔵フラッシュが自動的にポップアップしません。

◀ボタン機能

◀ボタンに機能を登録することができます。

MENU ▶ [Ỵ1] ▶ [◀ ボタン機能]

[OFF]

機能は割り当てられていません。

[ワンタッチWB]

◀ボタンを押して、ホワイトバランスの値を取得します。

☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P 66)

[試し撮り撮影]

◀ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、画像カードに記録することなく液晶モニタで画像の確認ができます。すばやく設定値の効果を確認するのに便利です。

[プレビュー]/[ライブプレビュー]（電子式）

◀ボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。

☞「プレビュー機能」(P 37)

LV ブースト

ライブビュー撮影中に、液晶モニタを明るくして被写体を確認しやすくすることができます。

MENU ▶ [Ỵ1] ▶ [LV ブースト]

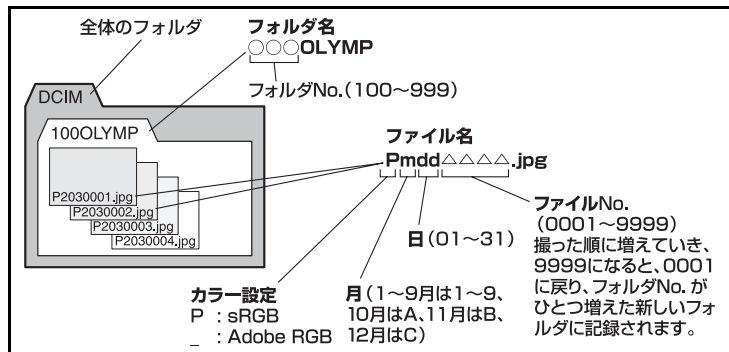
[OFF]

設定した露出に応じた明るさで被写体が液晶モニタに表示されます。撮影結果に近い画像を、あらかじめ液晶モニタで確認しながら撮影できます。

[ON]

被写体を確認しやすいように、カメラが明るさを自動的に調整して液晶モニタに表示します。ホワイトバランス・露出補正の調整結果は液晶モニタには反映されません。

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときにファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

MENU ▸ [ſ2] ▸ [ファイルネーム]

[オート]

カードを入れ換えても、ファイルNo.は通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNo.と重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNo. に続いた番号が付けられます。

[リセット]

新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo. に続けて番号が付けられます。

- 最大のフォルダNo. 999、ファイルNo. 9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

撮影後すぐに画像を確認する — 撮影確認

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

MENU ▸ [2] ▸ [撮影確認]

[OFF]	記録中の画像は表示されません。
[1秒]～[20秒]	画像を表示する時間を指定します。1秒刻みで設定することができます。

ビープ音を設定する

ボタンを押したときにカメラが発するビープ音をオン／オフすることができます。

MENU ▸ [1] ▸ [ビープ音]

[OFF]/[ON]

液晶モニタの明るさを変える — モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

MENU ▸ [2] ▸ [モニタ調整]

◁▷で明るさを調整します。

スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消費を抑えます。スーパーコンパネ表示中は一定時間経過後、バックライトが消灯し、さらに一定時間が経過するとスリープモードになります。**[スリープ時間]**では、スリープモードに入るまでの時間を設定することができます。**[OFF]**に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

MENU ▸ [2] ▸ [スリープ時間]

[OFF]/[1分]/[3分]/[5分]/[10分]

バックライト時間

スーパーコンパネ表示中に一定時間が経過すると、バックライトが消灯して液晶モニタが暗くなり、電池の消費を抑えます。**[HOLD]**に設定するとバックライトは消灯しません。
バックライトを点灯させるにはシャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

MENU ▸ [Y2] ▸ [バックライト時間]
[8秒]/[30秒]/[1分]/[HOLD]

USB 接続モード

USBケーブルを使って、カメラをパソコンやプリンタへ直接接続することができます。あらかじめ何に接続するかを設定しておくと、カメラを接続した際に毎回設定する手間を省くことができます。カメラをこれらの機器に接続した際の使い方は、「カメラをプリンタに接続する」（☞ P 94）、「カメラをパソコンに接続する」（☞ P 99）をお読みください。

MENU ▸ [Y2] ▸ [USB 接続モード]

[オート]
カメラを他の機器と接続したときの使い方を毎回設定します。選択画面が毎回表示されます。

[ストレージ]
パソコンに画像を転送するときに使用します。カメラをパソコンと接続してOLYMPUS Masterを使うときにもこれに設定します。

[MTP]
Windows Vistaで、OLYMPUS Masterを使わずに画像を転送するときに設定します。

[カメラコントロール]
OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。

[凸かんたん]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。
☞「カメラをプリンタに接続する」(P 94)

[凸カスタム]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。プリント枚数や用紙などを設定してプリントすることができます。
☞「カメラをプリンタに接続する」(P 94)

表示する言語を切り換える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを、日本語ではなく他の言語にすることができます。

MENU ▸ [Ỉ2] ▸ [言語]

⊕⊕で表示したい言語を選択します。

- OLYMPUS Masterを使って表示する言語を増やすことができます。詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをお読みください。(☞ P 98)

TV につなぐ前に

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。
海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。設定してからテレビにつないでください。間違った映像(ビデオ)信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

MENU ▸ [Ỉ2] ▸ [ビデオ出力]
[NTSC]/[PAL]

主な国と地域の映像信号

海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

(水中モード)

モードダイヤルの**[ ]**(スポーツ)と**[ ]**(夜景&人物)を**[ ]**(水中マクロ)と**[ ]**(水中ワイド)に置き換えることができます。水中での撮影には別売の水中プロテクタをご使用ください。

MENU ▸ [Ỉ1] ▸ [/]
[DIAL]/[DIAL]

バージョン

カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
お問い合わせいただく際やソフトウェアをダウンロードする場合に必要になることがあります。

MENU ▸ [Ỉ2] ▸ [バージョン]

⊕を押します。カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。OKボタンを押すと、前の画面に戻ります。

5 設定・機能のカスタマイズ

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。

画像が記録されているカードをカメラに入れてください。

プリント予約したい画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF 対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容にしたがってプリントできます。

DPOF 対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PC カードアダプタが必要な場合もあります。

注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。また、このカメラで新たに DPOF予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- RAWデータはプリントできません。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

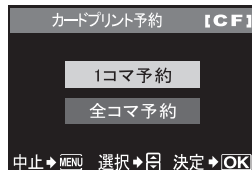
プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

1コマ予約する

操作ガイドにしたがって1枚の画像をプリント予約してみましょう。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]**

操作ガイド

2 **[1コマ予約]を選び、OKボタンを押します。**

3 **◁▷を押してプリント予約したいコマを選択し、▽△を押してプリントする枚数を設定します。**

- 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。

4 **プリント予約が終わったら OK ボタンを押します。**

- 1コマ予約のメニュー画面が表示されます。

5 **日時の種類を選択し、OKボタンを押します。**

[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。

6 **[予約する]を選択し、OKボタンを押します。**

6

プリントする

全コマ予約する

カード内全画像をプリント予約します。プリント枚数は1枚固定です。

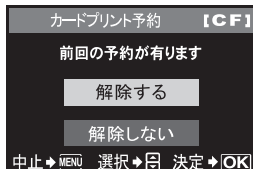
1 **MENU ▸ [▶] ▸ [**プリント予約**]**
2 **[**全コマ予約**]**を選び、OKボタンを押します。
3 日時の種類を選択し、OKボタンを押します。
[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。
4 **[**予約する**]**を選択し、OKボタンを押します。

プリント予約を解除する

すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [**プリント予約**]**

すべての予約を解除する

2 **[1**コマ予約**]**または**[**全コマ予約**]**を選択しOKボタンを押します。
3 **[**解除する**]**を選択し、OKボタンを押します。

1 コマずつ予約を解除する

2 **[1**コマ予約**]**を選択しOKボタンを押します。
3 **[**解除しない**]**を選択し、OKボタンを押します。
4 ◁▷を押してプリント予約を解除したいコマを選択し、▽でプリント枚数を**0**に設定します。
5 プリント予約の解除が終わったら、OKボタンを押します。
6 日時の種類を選択し、OKボタンを押します。
• プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。
7 **[**予約する**]**を選択し、OKボタンを押します。

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞ P 96）で**[標準設定]**を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

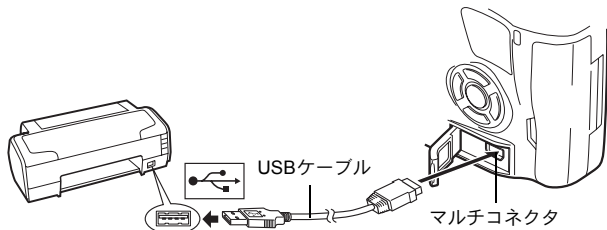
- 使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

注意

- プリントを始める際は、充電した電池をご使用ください。
- RAWデータで記録された画像は、プリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

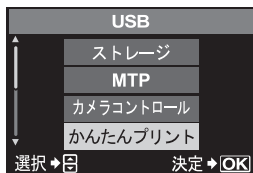
カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 **プリンタの電源を入れて、カメラに付属のUSBケーブルで、カメラのマルチコネクタとプリンタのUSBポートを接続します。**
- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 **カメラの電源を入れます。**
- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 **で[かんたんプリント]か[カスタムプリント]を選択します。**

[かんたんプリント]を選択した場合
- 「かんたんプリントでプリントする」（P 95）へ進んでください。

[カスタムプリント]を選択した場合
- **[しばらくお待ちください]**と表示されたあと
カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。
「カスタムプリントでプリントする」（P 95）へ進んでください。

注意
- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USB ケーブルを抜いて、手順1からやり直してください。

かんたんプリントでプリントする

1 ◁▷ボタンを押して、プリントする画像をカメラに表示します。

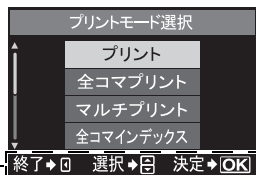
- プリントしたい画像をカメラに表示してから、USBケーブルでカメラとプリンタを接続すると、すぐに右の画面が表示されます。

かんたんプリント開始 ➔ 🖶
PC・カスタムプリント ➔ OK

2 🖶（プリント）ボタンを押します。

- プリントが終わると画像選択の画面が表示されます。別の画像をプリントするときは◁▷を押して画像を選択し、🖶ボタンを押します。
- 終了するときは、画像選択の画面が表示された状態でカメラからUSBケーブルを抜きます。

カスタムプリントでプリントする

1 操作ガイドにしたがってプリントの各設定をします。

この部分に表示されるガイドにしたがって操作を進めてください。

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下の通りです。

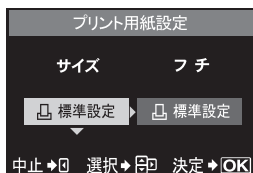
[プリント]	選択した画像をプリントします。
[全コマプリント]	カードの中の全画像をプリントします。
[マルチプリント]	1 枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
[全コマインデックス]	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
[予約プリント]	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像がないときは、選択できません。（☞ P 91）

6 プリントする

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

[サイズ] プリンタで用意されている用紙に合わせます。

[フチ] 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。

[分割数] 同じ画像を1枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで**[マルチプリント]**を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。

[プリント]（OK） 表示している画像をプリントします。**[1枚予約]**をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。

[1枚予約]（△） 表示している画像をプリントする予約をします。**[1枚予約]**をしたら、◁▷で、次に予約したい画像を選んでください。

[詳細予約]（▽） 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。
☞「プリントする情報を設定する」（P 97）

123－3456
選択
プリント OK
1枚予約
詳細予約

6 プリントする

プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。

[プリント枚数] プリントする枚数を設定します。
[日付] 画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。
[ファイル名] 画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。

プリント情報設定
プリント枚数 1枚
日 付 無 し
ファイル名 無 し
選択 設定 決定 OK

2 **プリントする画像や内容が決まったら、[プリント]を選び⊛ボタンを押します。**

[プリント] プリンタへプリントする画像のデータを転送します。
[中止] プリントをやめます。設定した予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、◁を押します。一つ前の設定に戻ります。

• プリントを始めてから途中で停止したいときは、⊛ボタンを押します。

[続行] プリントを続行します。
[中止] プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。

準備するもの

- OLYMPUS Master 2 CD-ROM
- USBケーブル
- USBポートを装備したパソコン

OLYMPUS Masterをインストールする
（OLYMPUS Masterに同梱されているインストールガイドを参照）

▼

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する （☞ P 99）

▼

OLYMPUS Masterを起動する （☞ P 100）

▼

画像をパソコンに保存する （☞ P 100）

▼

カメラをパソコンから取り外す （☞ P 101）

付属の OLYMPUS Master を使う

OLYMPUS Master とは？

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむためのアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

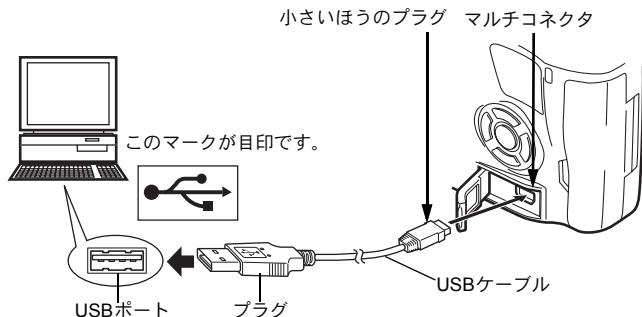
- **カメラやメディアから画像を取り込む**
- **画像を見る**
  スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。
- **画像を整理・管理する**
  アルバム、またはフォルダで画像を整理できます。取り込んだ画像は撮影日時で自動的に整理され、日付によって画像をすばやく見つけることができます。
- **フィルタ機能、補正機能で画像を補正する**
- **画像を編集する**
  画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。
- **プリンタを使ってプリントする**
  簡単な操作でプリントできます。
- **パノラマ写真を作る**
  パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。
- **カメラのバージョンアップをする**

その他の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの「ヘルプ」をご覧ください。

カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 付属のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのマルチコネクタを接続します。

- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラのパワースイッチをONにします。

- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

USB
ストレージ
MTP
カメラコントロール
かんたんプリント
選択 決定 OK

3 ⊜⊝を押して[ストレージ]を選択します。⊛ボタンを押します。

4 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

- Windowsの場合
  初めてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは「リムーバブルディスク 」として認識されます。
- Macintoshの場合
  Mac OSでは、iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは、iPhotoが自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。

注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Master を起動する

■ **Windowsの場合**

1 デスクトップの「**OLYMPUS Master 2**」アイコン をダブルクリックします。

■ **Macintoshの場合**

1 「**OLYMPUS Master 2**」フォルダ内の「**OLYMPUS Master 2**」アイコン をダブルクリックします。
- ブラウズウィンドウが表示されます。
- OLYMPUS Masterをインストールして初めて起動すると、ブラウズウィンドウの前にOLYMPUS Masterの初期設定画面とユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって操作してください。

OLYMPUS Master を終了するには

1 各ウィンドウで「閉じる」 をクリックします。
- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

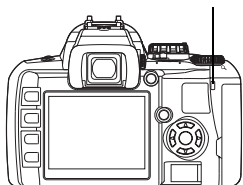
1 ブラウズウィンドウで「取り込み」 をクリックして、「カメラから取り込み」 をクリックします。
- カメラから取り込みウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

2 「新規アルバム」を選択して、アルバムの名前を入力します。

3 画像ファイルを選択し、「取り込み」ボタンをクリックします。
- 取り込み完了のメッセージが表示されます。

4 「今すぐ画像を見る」ボタンをクリックします。
- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。

カメラを取り外す

1 カメラのカードアクセスランプの点滅が終了していることを確認します。

2 USBケーブルを抜く準備をします。

■ **Windowsの場合**

1) システムトレイに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコン をクリックします。

2) 表示されるメッセージをクリックします。

3) 「デバイスは安全に取り外すことができます」が表示されたら、「OK」をクリックします。

■ **Macintoshの場合**

1) デスクトップの「名称未設定」（または「NO_NAME」）アイコンをドラッグすると「ごみ箱」アイコンが「取り出し」アイコンに変わりますので、そのまま「取り出し」アイコンの上にドロップしてください。

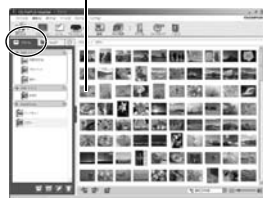
3 カメラからUSBケーブルを引き抜きます。

注意

- Windows の場合：
  「ハードウェアの取り外し」をクリックした際、「カメラを停止できません」という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、「ハードウェアの取り外し」の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画を見る

1 **ブラウズウィンドウの「アルバム」タブをクリックし、見たいアルバムを選択します。**
- 選択したアルバムの画像がサムネイルエリアに表示されます。

2 **見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。**
- 画像編集ウィンドウに切り換わり、画像が拡大されます。
- 「戻る」をクリックすると、ブラウズウィンドウに戻ります。

OLYMPUS Master を使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows　：Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP Home Edition/
XP Professional/Vista
Macintosh：Mac OS 9.0-9.2/X

注意

- Windows 98SEをお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの、以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。
（お使いのパソコンのドライブ名）：¥win98usb\INSTALL.EXE
- Windows Vistaをお使いの場合は、99ページの手順3で**[MTP]**を選択することでWindows フォト ギャラリーが使用できます。
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  - Windows 95/98/NT 4.0
  - Windows 95/98からアップグレードしたWindows 98SE
  - Mac OS 8.6以前
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

こんなときは？

撮影前、こんなときは

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない
- 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した
- 電池は低温下にあると性能が低下して、カメラを動かすための十分な充電量が確保できない場合があります。カメラから電池を一度取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた
- カメラはオン状態（液晶モニタ点灯）でも、何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、カメラは動作停止します。このとき液晶モニタは消灯します。更に4時間何も操作をしないと、自動的に電源が切れます。カメラは電源を入れ直すまで動きません。☞「スリープ時間」（P 87）

フラッシュが充電中である
- フラッシュを起こしているとき、スーパーコンパネやファインダ内の⚡マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった
- ファインダ内の合焦マークが点滅しているときは、AF でピントを合わせることができなかったときです。もう一度シャッターボタンを押しなおしてください。

ノイズリダクションが作動している
- 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。**[ノイズリダクション]**は**[OFF]**に設定することもできます。☞「ノイズリダクション―長秒時の画像ノイズを軽減する」（P 68）

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

- お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。☞「日時を設定する」(P 8)

カメラから電池を抜いていた

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

こんな撮影がしたい

狙ったものにピントを合わせたい

被写体の種類によっていくつかの方法があります。

被写体に AF フレームがあっていない

- 被写体にAFフレームがあたるようにしてフォーカスロックを使います。
  ☞「ピントが合わないとき（フォーカスロック）」(P 38)

それぞれの AF フレームに被写体以外のものがあたっている

- [···]（AFフレーム選択）を[·]に設定し、画面中央でピント合わせをします。
  ☞「AFフレームの選択」(P 54)

被写体の動きが早い

- 撮影しようとする位置とほぼ同じ距離のものでピントを合わせ（シャッターボタン半押し）、そのまま撮影する構図に移して被写体を待ちます。

マクロレンズによる接写をしている

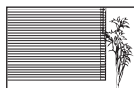
- マクロレンズを使って接写などをする場合、被写体の拡大率が大きいほど AFではピントが合いにくくなります。マニュアルフォーカス（MF）を使って、フォーカスリングを回して手動でピントを合わせます。☞「MF（マニュアルフォーカス）」(P 55)

暗いところで撮影をしている

- 内蔵フラッシュは AF イルミネータとして機能させることができます。フラッシュを起こしておくと、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピント合わせができます。☞「内蔵フラッシュを使う」(P 45)

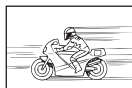
オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

被写体がAFフレーム内にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。

ぶれない写真を撮りたい

写真がぶれる理由は、いくつかあります。

被写体が暗い

- 被写体の明るさに合わせてシャッター速度は変化します。被写体が暗くシャッター速度が遅いとき、被写体が動くとぶれやすくなります。また SCENE（シーンモード）の中には、フラッシュが発光禁止に設定されている場合があるので、シャッター速度はさらに遅くなります。
  三脚などを使ってカメラを固定しましょう。さらにリモコン（別売）を使ってシャッターを切ると効果的です。
  また、SCENE（シーンモード）の[((✋))]（ぶれ軽減）で撮影する方法もあります。ISO感度が自動的に高くなるので、明るさが不足している状況でも、手持ちでフラッシュを発光させないで撮影できます。

シャッターを切るときにカメラがぶれている、カメラを構える手がぶれている。

- シャッターボタンは静かに押してください。また、カメラは両手で持って正しく構えましょう。

フラッシュをあまり光らせないで撮りたい

フラッシュは明るさが不足して、手ぶれを発生する場合は自動的に光ります。被写体の距離が遠いとフラッシュが光ってもあまり効果がない場合があります。このようなときは以下の方法があります。

SCENE（シーンモード）を [(手)]（ぶれ軽減）に設定する

- ISO感度が自動的に高くなるので、明るさが不足している状況でも、手持ちでフラッシュを発光させないで撮影できます。

[ISO 感度] 設定を高くする

- **[ISO感度]**設定の数値を高くします。画像が粗くなる場合があります。
☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」（P 62）

撮影した写真が粗い

撮影した写真が粗く見える理由はいくつかあります。

ISO 感度を高く設定して撮影した

- **[ISO感度]**設定を高くすると、「ノイズ」と言われる本来そこにはないはずの色の小さな点や均一の色の部分に色むらが発生し、画像が粗く見えます。このカメラはノイズを抑えて高感度で撮影できる機能を備えていますが、ISO感度を高くすると、低いときよりは粗くなります。
☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」（P 62）

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストと言われる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。

正しい色で撮りたい

撮影した写真の色が見た目と違う原因は被写体を照らす光源です。**[ホワイトバランス]**はカメラが正しい色を判断するための機能です。通常は**[オート]**でほとんどの環境をカバーしますが、被写体の条件によっては**[ホワイトバランス]**の設定を変えて試してみる方が良い場合があります。

- 晴天の日中でも被写体が陰になるとき
- 窓辺などで外光と照明光が重なってあたるとき
- 画面の中に白いものがないとき
☞「画像の色合いを調整する—ホワイトバランス」（P 63）

白い砂浜や雪景色をきれいな白で撮りたい

通常、雪などの白い被写体を撮影すると実際より暗く写ってしまいます。見たままの白を表現する方法はいくつかあります。

- 露出補正を**[+]**に補正します。☞「画像の明るさを変える—露出補正」（P 61）
- **SCENE**（シーンモード）の**[ ]**（ビーチ＆スノー）を使って撮影します。晴天の海や雪山で撮影するのに最適です。☞「シーンモード」（P 32）
- **[⊙HI]**（ハイライトコントロール）を使います。
  ファインダ中央を、白く表現したい部分にあててシャッターボタンを半押しします。中央で測光した部分が白く写るように設定されます。
  ☞「測光方式を変える—測光モード」（P 60）
- オートブラケット機能を使って撮影します。
  露出補正の量がわからないときは、オートブラケットを使ってみましょう。シャッターボタンを押すたびに補正値を少しずつ変えて撮影されます。露出補正を少し大目に設定しておけば、その値を中心に上下に補正値を変えて撮影できます。☞「AEブラケット撮影」（P 39）

逆光でも人物の顔が暗くならないように撮りたい

被写体に比べて背景などが極端に明るい場合は、明るい部分に露出が影響されて被写体が暗く写ってしまいます。これは、カメラが画面全体の明るさから判断して露出を決めてしまうためです。

- **[測光]**を**[⊙]**（スポット測光）に設定して画面中央で被写体の露出を計ります。構図を変えるときは被写体を画面中央におき、**AFL**ボタンを押しながら構図を変えてシャッターボタンを押します。
  ☞「測光方式を変える—測光モード」（P 60）
- フラッシュを起こしてフラッシュモードを**[⚡]**（強制発光）に設定して撮影します。逆光でも顔が暗くならずに撮影できます。**[⚡]**（強制発光）は逆光の他、蛍光灯など人工照明下での撮影のときにも使用します。
  ☞「フラッシュモードを設定する」（P 45）

明るすぎたり暗すぎたりして写る

Sモードや**A**モードで撮影するとき、スーパーコンパネやファインダのシャッター速度や絞りの表示が点滅することがあります。赤の表示は、正しい露出になっていないことを示しています。このままの状態で撮影すると、明るすぎる、または暗すぎる写真になってしまいます。その場合は、絞り値やシャッター速度の設定値を変更してください。

☞「**A**：絞り優先撮影」（P 34）、「**S**：シャッター優先撮影」（P 35）

被写体に無い明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。**[ピクセルマッピング]**を行ってください。また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。☞「画像処理機能をチェックする — ピクセルマッピング」（P 115）

撮影中、これが知りたい

撮影できる枚数を多くしたい

撮影した画像は、カードに記録されます。より多くの画像を記録するには以下の方法があります。

- 画質モードを変えます。
  画質モードによって1枚の画像の容量は異なります。カードの空き容量を確保できない場合は画質モードを変えて撮影してみましょう。**[ピクセルサイズ]**は小さく**[圧縮率]**の値が大きいほど画像の容量は小さくなります。画質モードの**[SQ]**ではその両方を選択することができます。☞「画質モードを選択する」（P 58）
- 容量の大きいカードをお使いください。
  記録できる画像枚数は、使用するカードの容量によって異なります。容量の大きいカードをお使いください。

新しいカードを使いたい

オリンパス製以外のカードを使うときや、パソコンなどで他の用途に使用したカードをカメラに入れると、**[このカードは使用できません]**と表示されることがあります。その場合は、**[カード初期化]**の機能を使ってカードを初期化してください。☞「カードを初期化する」（P 117）

電池を長持ちさせたい

以下の操作をすると実際に撮影をしなくても、電池の消耗は進みます。

- シャッターボタンの半押しを繰り返す
- 撮影した画像の再生を長時間繰り返す
- 長時間ライブビュー機能を使う

電池の消耗をできるだけ防ぐには、こまめに電源を切るようにしましょう。

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。
- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- すでに設定済みの項目との組み合わせの関係で設定できない場合：
  [連写]と**[ノイズリダクション]**の組み合わせなど。

画質モードの選び方の目安を知りたい

画質モードは、大きくはRAWとJPEGの2種類に分けられます。RAWは画像自体に露出補正やホワイトバランスなどの設定を反映せずに記録します。JPEGはこれらの設定を反映した画像で記録します。また、JPEGは画像を記録する際にファイルサイズを小さくするために圧縮して記録します。JPEGは**[SHQ]**、**[HQ]**、**[SQ]**の種類があり、画像のサイズ（ピクセルサイズ）や圧縮率の大小で分けられています。圧縮率が大きいほど画像を拡大して表示した場合に粗さが目立ちます。選択する際のおおよその目安は以下の通りです。

撮影時の設定を元に、パソコンで微調整したい
- **[RAW]**

A3/A4 などの大きなサイズで印刷したい／パソコンで画像処理したい
- ピクセルサイズの大きい**[SHQ][HQ]**

はがきなどのサイズに印刷したい
- ピクセルサイズの大きい**[SQ]**

メールに添付したりホームページに載せる
- ピクセルサイズの小さい**[SQ]**

☞「画質モード一覧」（P 124）

設定した機能を購入時の設定に戻したい

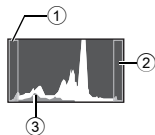
- 設定した機能は電源を切っても保持しています。（「かんたん撮影モード」（P 18）で電源を入れた場合は、特定の設定に変わります。）
- 工場出荷時の設定に戻したいときは、**[カスタムリセット設定]**で**[リセット]**を実行します。また、リセットしたときの設定を2種類まで選ぶことができます。カメラの各機能を設定して**[カスタムリセット設定]**で**[リセット1]**または**[リセット2]**に登録します。☞「カスタムリセット設定」（P 81）

屋外で液晶モニタが見にくい状況で露出の確認をしたい

明るい屋外での撮影では、液晶モニタが見にくく露出の確認がしづらいことがあります。

ライブビュー撮影中に**INFO**ボタンを繰り返し押してヒストグラムを表示させます。
ヒストグラム表示の簡単な見かたは次の通りです。

ヒストグラム表示について

①このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は黒くつぶれ気味に写ります。
②このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は白くとび気味に写ります。
③ヒストグラムの緑色の部分は、AFフレーム内の輝度分布です。

☞「ライブビュー」（P 24）

再生中、こうしたい

撮影した画像の設定値などの情報を知りたい

画像を再生して**INFO**ボタンを押します。繰り返し押すと、表示される情報量が変わります。☞「情報表示」（P 72）

画像をパソコンで見るとき、こうしたい

パソコンの画面で画像全体を見たい

パソコンのモニタ上で画像が表示されるときの大きさは、パソコンの設定によって変わります。モニタの設定が1024 × 768のときInternet Explorerを使って画像を見る場合、画像サイズが2048 × 1536の画像を100%で表示するとスクロールしないと全体を見ることができません。この場合、いくつかの方法があります。

画像閲覧用のソフトを使って画像を見る

- 付属のCDのOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。

パソコン画面のプロパティの設定を変更する

- デスクトップのアイコンの配置が変わってしまうことがあります。パソコンの設定方法は、パソコンの取扱説明書をお読みください。

RAWで記録した画像を見たい

- 付属のCDのOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。OLYMPUS MasterのRAW現像の機能を使うと画像を撮影時の設定にしたり、露出補正やホワイトバランスなどの設定を細かく変更することもできます。

エラーメッセージが表示されたら

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
通常表示	[!] カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
E Card	[!] このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
P Card	[!] 書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
表示なし	[!] 撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	[!] カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。
表示なし	[!] この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
表示なし	[!] この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるまでお待ちください	長時間のライブビューや連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	しばらくすると、自動的に電源が切れます。カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
oP Card	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
表示なし	電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
表示なし	接続されていません	カメラがパソコンまたはプリンタに正しく接続されていません。	カメラとパソコンまたはプリンタを正しく接続しなおしてください。
表示なし	用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
表示なし	インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
表示なし	紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
表示なし	プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
表示なし	この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⒺマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラのお手入れと保管

■ カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側：

→柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ：

→柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシングスクリーン：

→市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

■ カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときに働きます。また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。ダストリダクションが動作中はSSWFランプが点滅します。

☞「SSWFランプ」（P 7）

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

ゴミの除去 — クリーニングモード

撮像素子にゴミやホコリが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。オリンパスのサービスステーションへクリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。電池残量にご注意ください。

1 **レンズを取り外し、パワースイッチをONにします。**

2 **MENU ▸ [Y2] ▸ [クリーニングモード]**

3 **を押して、OKボタンを押します。**
- クリーニングモードになります。

4 **シャッターボタンを全押しします。**
- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

5 **撮像素子をクリーニングします。**
- ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

6 **電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。**
- カメラの電源を切ると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。

カラー設定 sRGB
ピクセルマッピング
クリーニングモード
バージョン
中止 ▸ MENU 選択 ▸ 決定 ▸ OK

注意
- ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。ブロアーが撮像素子に触れると傷がつきます。
- ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
- ブロアー以外のものは使用しないでください。高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

画像処理機能をチェックする — ピクセルマッピング

現像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 **MENU ▸ [Y2] ▸ [ピクセルマッピング]**

2 **を押して、OKボタンを押します。**
- ピクセルマッピング実行中の **[処理中]** バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

注意
- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

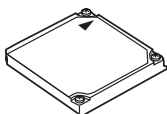
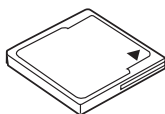
カードについて

使用できるカード

本書では、記録メディアを“カード”と呼びます。このカメラで使用できるカードは、コンパクトフラッシュ、マイクロドライブ、xD-ピクチャーカード（別売）です。

コンパクトフラッシュ
大容量かつ堅牢性の高いフラッシュメモリーカードです。市販のコンパクトフラッシュが使用できます。

マイクロドライブ
大容量に対応した小型のハードディスクドライブです。CF＋TypeII（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使用できます。

xD-ピクチャーカード
主にコンパクトカメラで使用されている記録メディアです。

マイクロドライブ使用時のご注意

マイクロドライブは小型のハードディスクドライブです。回転系記録媒体のため、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に弱く、使用時（とくに記録中や再生中）は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分な注意が必要です。ご使用の前に以下の注意事項をよくお読みください。
マイクロドライブの取扱説明書も合わせてお読みください。

- 画像記録中にカメラを机などに置く場合は、カメラに衝撃を与えないでください。
- 工事などで地盤が振動している場所や、舗装の悪い道を走行中の車など、カメラに激しく振動が伝わる場所では使用しないでください。
- 強い磁気のある場所へ近づけないでください。

注意

- 初期化や削除してもカード内のデータは完全に消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードを初期化する

当社製以外のカードやパソコンで初期化したカードを使用する場合は、必ずこのカメラで初期化しなおしてください。
初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

1. **MENU ▸ [📷1] ▸ [カードセットアップ]**
2. **△▽で[カード初期化]を選択します。ⓄⓀボタンを押します。**
3. **△▽で[実行]を選択します。ⓄⓀボタンを押します。**
   - 初期化が実行されます。

こんなときは

2 つのカードスロットにカードを挿入しているときは：

→ **MENU**の**[記録カード選択]**で使用するカードを選択してください。

MENU ▸ [ⵖ2] ▸ [記録カード選択]

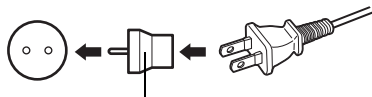
[CF]/[xD]

9 資料

電池／充電器について

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（BLS-1）1 個を使用します。
  それ以外の電池は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ライブビュー撮影中。
  - 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（BCS-1）で充電を行ってください。
- 付属の充電池の充電時間は通常約210分（目安）です。
- 専用の充電器以外は使用しないでください。

海外での使用について

- 充電器は、世界中のほとんどの家庭用電源AC100～240V（50/60Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター（市販）が必要になる場合があります。

変換プラグアダプター（市販）

イラストの変換プラグアダプター（市販）は一例です。
詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器が故障することがありますので使用しないでください。

メニュー一覧

撮影メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	カードセットアップ	全コマ消去／カード初期化		P 79 P 117
	カスタムリセット設定	リセット		P 81
		リセット1	登録／クリア	
		リセット2	登録／クリア	
	仕上がり	VIVID／NATURAL*／FLAT／モノトーン		P 67
	階調	ハイキー／標準*／ローキー		P 68
	画質モード	RAW ／ SHQ ／ HQ* ／ SQ ／ RAW+SHQ ／ RAW+HQ／RAW+SQ		P 58
	WBモード	オート*	R-7～+7,G-7～+7	P 64
		5300K	R-7～+7,G-7～+7	
		7500K	R-7～+7,G-7～+7	
		6000K	R-7～+7,G-7～+7	
		3000K	R-7～+7,G-7～+7	
		4000K	R-7～+7,G-7～+7	
		4500K	R-7～+7,G-7～+7	
		6600K	R-7～+7,G-7～+7	
			R-7～+7,G-7～+7	
		CWB	2000K - 14000K	
	ISO感度	オート*／100～1600		P 62
	ノイズフィルタ	OFF／弱／標準*／強		P 69
	ノイズリダクション	OFF／ON*		P 68
2	測光	*	AF連動ON*／AF連動OFF	P 60
		HI		
		SH		
	フラッシュ補正	-2.0～0.0*～+2.0		P 46
	AF方式	S-AF*／C-AF／MF／S-AF+MF／C-AF+MF		P 55
		オート*／[・]／[・]／[・]		P 54
	AE BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV		P 39
	低振動モード	OFF*／1秒～30秒		P 69

*初期設定

9 資料

再生メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
	自動再生	1*／4／9／16／25		P 73
	回転再生	OFF／ON*		P 73
	編集	RAW編集		P 75
		JPEG編集	モノクロ作成／セピア作成／赤目補正／鮮やかさ調整／リサイズ	
	プリント予約	1コマ予約／全コマ予約		P 90
	全コマコピー	実行／中止		P 77
	全プロテクト解除	実行／中止		P 78

*初期設定

カスタムメニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	全WBモード補正	ALL SET	R-7～+7	P 84
			G-7～+7	
		ALL CLEAR	実行／中止	
	SQ設定	ピクセルサイズ	3200 × 2400／2560 × 1920／1600 × 1200／1280 × 960*／1024 × 768／640 × 480	P 59
		圧縮率	1/2.7,1/4,1/8*,1/12	
	自動ポップアップ	OFF／ON*		P 84
	AEL／AFLモード	S-AF*	mode1*／mode2	P 83
		C-AF	mode1*／mode2	
		MF	mode1*／mode2	
	AEL／AFL MEMO	OFF*／ON		P 84
	AEL測光モード	オート*／／／HI／SH		P 84
	ボタン機能	OFF*／ワンタッチWB／試し撮り撮影／プレビュー／ライブプレビュー		P 85
	AFイルミネータ	OFF／ON*		P 57
	LVブースト	OFF*／ON		P 85
	ビープ音	OFF／ON*		P 87
	罫線表示	OFF*／黄金分割／方眼／目盛		P 25
	／	DIAL*／DIAL		P 89

*初期設定

9 資料

セットアップメニュー

タブ	機能	選択肢	参照ページ
2	日時設定	—	P 8
	記録カード選択	CF*／xD	P 117
	ファイルネーム	オート*／リセット	P 86
	モニタ調整	Lo -7～0*～Hi +7	P 87
		日本語*／ENGLISH	P 89
	ビデオ出力	NTSC*／PAL	P 89
	撮影確認	OFF／1秒～20秒（5秒*）	P 87
	スリープ時間	OFF／1分*／3分／5分／10分	P 87
	バックライト時間	8秒*／30秒／1分／HOLD	P 88
	USB接続モード	オート*／ストレージ／MTP／カメラコントロール／かんたん／カスタム	P 88
	カラー設定	sRGB*／Adobe RGB	P 69
	ピクセルマッピング	—	P 115
	クリーニングモード	—	P 115
	バージョン	—	P 89

*初期設定

撮影モード別設定可能な機能

<table>
<tr><th colspan="2">機能</th><th>AUTO</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th>🧑 ▲ 🌷 🏃 🌙</th><th>SCENE</th></tr>
<tr><td colspan="2">絞り値</td><td colspan="2">—</td><td>✓</td><td>—</td><td>✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">シャッター速度</td><td colspan="3">—</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">バルブ撮影</td><td colspan="4">—</td><td>✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出補正</td><td colspan="4">✓</td><td>—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">画質モード</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ撮影</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="8">フラッシュモード</td><td>AUTO</td><td colspan="3">✓</td><td colspan="2">—</td><td rowspan="2">✓
（■は除く）</td><td>—</td></tr>
<tr><td>👁</td><td colspan="3">✓</td><td colspan="2">—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>👁SLOW</td><td colspan="3">✓</td><td colspan="2">—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>⚡SLOW</td><td colspan="3">✓</td><td colspan="2">—</td><td>✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>👁⚡</td><td colspan="3">—</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td>⚡SLOW2</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>⚡</td><td colspan="6">✓（■は除く）</td><td>—</td></tr>
<tr><td>⊘⚡</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">カスタムリセット設定</td><td>—</td><td colspan="4">✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">仕上がり</td><td colspan="5">✓</td><td colspan="2">—</td></tr>
<tr><td colspan="2">階調</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノイズリダクション</td><td colspan="6">✓</td><td>✓
（■は除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノイズフィルタ</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">WB補正</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">ISO感度</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホワイトバランス</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ補正</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">測光</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">▭（連写）</td><td colspan="6">✓</td><td>—*1</td></tr>
<tr><td colspan="2">◷（セルフタイマー）</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">▯（リモコン）</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">AF方式</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">[•••]</td><td colspan="6">✓</td><td>✓
（■は除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">AE BKT</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">低振動モード</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">全WBモード補正</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">SQ設定</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">自動ポップアップ</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">AEL／AFLモード</td><td colspan="6">✓</td><td>—</td></tr>
</table>

✓：設定可　—：設定不可　*1：■,■,■は設定可

9 資料

機能	AUTO	P	A	S	M	🎭	SCENE
AEL／AFL MEMO	✓						—
AEL測光モード	✓						—
◀ボタン機能	✓						—
罫線表示	✓						✓ (パノラマは除く)
日時設定	✓						
記録カード選択	✓						
ファイルネーム	✓						
モニタ調整	✓						
言語設定	✓						
ビデオ出力	✓						
ビープ音	✓						
撮影確認	✓						
スリープ時間	✓						
バックライト時間	✓						
USB接続モード	✓						
カラー設定	✓						—
AFイルミネータ	✓						—
LVブースト	✓						
ピクセルマッピング	✓						
クリーニングモード	✓						

✓：設定可　　—：設定不可

9 資料

画質モード一覧

表内のファイルサイズはおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ	圧縮率	ファイル形式	ファイルサイズ(MB)
RAW	3648 × 2736	ロスレス圧縮	ORF	約11
SHQ		1/2.7	JPEG	約6.8
HQ		1/8		約2.2
SQ	3200 × 2400	1/2.7		約5.3
		1/4		約3.7
		1/8		約1.7
		1/12		約1.1
	2560 × 1920	1/2.7		約3.6
		1/4		約2.2
		1/8		約1.1
		1/12		約0.7
	1600 × 1200	1/2.7		約1.3
		1/4		約0.8
		1/8		約0.5
		1/12		約0.3
	1280 × 960	1/2.7		約0.8
		1/4		約0.5
		1/8		約0.3
		1/12		約0.2
	1024 × 768	1/2.7		約0.5
		1/4		約0.4
		1/8		約0.2
		1/12		約0.1
	640 × 480	1/2.7		約0.2
		1/4		約0.2
		1/8		約0.1
		1/12		約0.1

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもファインダや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。

各部の名称

カメラ

アイカップ☞ P 50
ファインダ☞ P 127
液晶モニタ
☞ P 131
▶（再生）ボタン
☞ P 70
（消去）ボタン
☞ P 79
MENUボタン
☞ P 22
INFO（情報表示）
ボタン
☞ P 72
三脚穴
視度調整ダイヤル
☞ P 7
AEL/AFLボタン
☞ P 62、P 83
O-π（プロテクト）
ボタン☞ P 78
（ライブビュー）
ボタン☞ P 24
パワースイッチ
☞ P 7
十字ボタン☞ P 22
OKボタン☞ P 22
OLYMPUS
電池カバーロック
☞ P 4
電池カバー
☞ P 4
カードカバー
☞ P 6
CF カードスロット
☞ P 6
xD-ピクチャー
カードスロット
☞ P 6
コネクタカバー
マルチコネクタ
☞ P 94、P 99
イジェクトボタン
☞ P 6

モードダイヤル
☞ P 18

コントロールダイヤル
☞ P 19、P 21

シャッターボタン
☞ P 10

±（露出補正）ボタン
☞ P 61

セルフタイマー／リモコンランプ／リモコン受信窓
☞ P 50、P 51

レンズ合わせマーク
☞ P 5

マウント
（ボディキャップを外してからレンズを取り付けます。）

内蔵フラッシュ
☞ P 45

ホットシュー ☞ P 47

⚡（フラッシュ）ボタン
☞ P 45

/⏲/⧉
（セルフタイマー／リモコン／連写）ボタン
☞ P 49

COPY/⎙
（コピー／プリント）ボタン ☞ P 77

ストラップ取り付け部
☞ P 3

レンズ取り外しボタン
☞ P 5

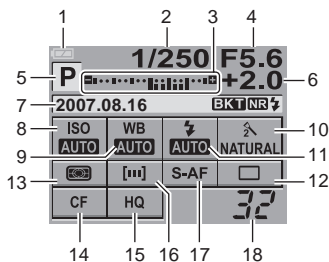
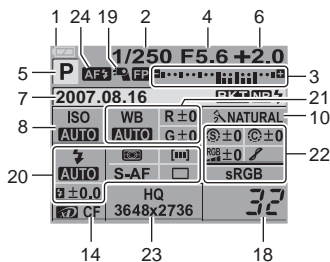
レンズロックピン

ミラー

9
資料

ファインダ内の表示

番号	項目	表示例	参照ページ
1	AFフレーム		P 38, 54
2	絞り値	F5.6	P 33 - 36
3	シャッター速度	250	P 33 - 36
4	合焦マーク	●	P 38
5	フラッシュ	（点滅：フラッシュ充電中、点灯：フラッシュ充電完了）	P 45
6	ホワイトバランス	WB	P 64
7	AEロック	AEL	P 62
8	露出補正値	0.7	P 61
9	測光モード	,	P 60
10	電池残量	（撮影可）、（充電してください）	—
11	露出モード	**P**, **Ps**, **A**, **S**, **M**	P 33 - 36

9
資料

スーパーコンパネ画面表示

番号	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	(撮影可)、(充電してください)	—
2	シャッター速度	1/250	P 33 - 36
3	露出補正インジケータ 露出レベルインジケータ フラッシュ発光量補正レベルインジケータ		P 61 P 36 P 46
4	絞り値	F5.6	P 33 - 36
5	露出モード	**P**, **A**, **S**, **M**, , , , ,	P 18 , P 32 - 36
6	露出補正値	+2.0	P 61
7	日付 オートブラケット撮影 ノイズリダクション フラッシュ発光予告・充電中 内部温度上昇警告	2007.08.16 BKT NR ℃/℉	P 8 P 39 P 68 P 45 P 112
8	ISO感度	AUTO, 100, 200, 400	P 62
9	ホワイトバランス	,	P 64
10	仕上がり	NATURAL	P 67
11	フラッシュモード	,	P 44
12	連写／セルフタイマー／リモコン	, 2s, 0s	P 49
13	測光モード	, , , HI, SH	P 60

番号	項目	表示例	参照ページ
14	使用カード	xD, CF	P 116
15	画質モード	HQ	P 59
16	AFフレーム	[···]	P 54
17	AF方式	S-AF	P 55
18	撮影可能枚数	32	—
19	スーパー FP発光	FP	P 48
20	フラッシュモード		P 44
	フラッシュ補正値	+2.0	P 46
	測光モード	, ,	P 60
	AF方式	S-AF	P 55
	AFフレーム	[···]	P 54
	連写／セルフタイマー／リモコン	, 2s, 0s	P 49
21	ホワイトバランス	,	P 64
	ホワイトバランス補正	R+3, G-2	P 65
22	カラー設定	sRGB, Adobe RGB	P 69
	シャープネス	S +2	P 67
	コントラスト	C +2	P 67
	彩度	RGB +2	P 67
	階調	, H, L	P 68
23	画質モード 画像サイズ	HQ 3648 × 2736	P 59
24	AFイルミネータ	AF	P 57

9

資料

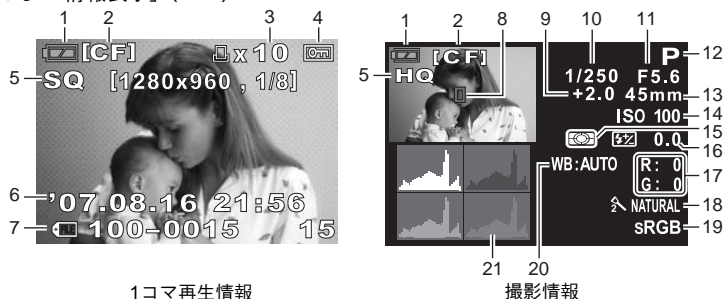
液晶モニタ内の表示（ライブビュー時）

番号	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	（撮影可）、（充電してください）	—
2	露出モード	P, A, S, M, , , , ,	P 18 , P 32 - 36
3	シャッター速度	1/250	P 33 - 36
4	絞り値設定	F5.6	P 33 - 36
5	露出補正値	+2.0	P 61
6	フラッシュ	（点滅：フラッシュ充電中、点灯：フラッシュ充電完了）	P 45
7	合焦マーク	●	—
8	フラッシュモード	,	P 44
9	ホワイトバランス	,	P 64
10	測光モード	, , , HI, SH	P 60
11	撮影可能枚数	38	—
12	使用カード	, CF	P 116
13	AFフレーム	—	P 54
14	画質モード	RAW+SHQ	P 59
15	仕上がり		P 67
16	AF方式	S-AF MF	P 55
17	連写		P 49
18	ISO感度	ISO AUTO, ISO100, ISO200, ISO400	P 62
19	内部温度上昇警告	℃/℉	P 112

9

資料

液晶モニタ内の表示（再生時）

INFO（情報表示）ボタンを使って表示を切り換えることができます。
☞「情報表示」（P 72）

1コマ再生情報　　撮影情報

番号	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	(撮影可)、(充電してください)	—
2	使用カード	**[CF]**, **[xD]**	P 116
3	プリント予約 プリント枚数	×10	P 90
4	プロテクト（保護）		P 78
5	画質モード	RAW, SHQ, HQ, SQ	P 59
6	日時	’07.08.16 21:56	P 8
7	ファイル番号 コマ番号	100-0015 15	P 72
8	AFフレーム表示		P 54
9	露出補正	+2.0	P 61
10	シャッター速度	1/250	P 33 - 36
11	絞り値設定	F5.6	P 33 - 36
12	露出モード	**P**, **A**, **S**, **M**, , , , ,	P 18 , P 32 - 36
13	焦点距離*	45 mm	P 141
14	ISO感度	ISO 100, ISO 200, ISO 400	P 62
15	測光モード表示	, , , **HI**, **SH**	P 60
16	フラッシュ補正	0.0	P 46
17	ホワイトバランス補正値	R: 0, G: 0	P 65
18	仕上がり	NATURAL	P 67
19	カラー設定	sRGB, Adobe RGB	P 69
20	ホワイトバランス	WB：AUTO	P 64
21	ヒストグラム	—	P 72

* 焦点距離は1 mm単位で表示されます。

9
資料

用語解説

50 音順

圧縮率

画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

一眼レフ方式（single lens reflex camera）

撮影用レンズから入ってくる光を、反射ミラーで屈折させてファインダで確認するカメラです。撮影される構図とファインダで見えている構図にずれが生じません。

色温度

光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K（ケルビン）で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

画素数

画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ（ピクセルサイズ）

画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 × 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 × 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 × 768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

カラー空間

3つ以上の座標値で色を表すモデルのこと。色空間は、色のコード化と可視化に複数の手法を用いる場合があります。sRGB、Adobe RGBがそれにあたります。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

撮像素子
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。撮像素子で受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

スポット測光
ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。被写体の特定の部分に露出を合わせせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

中央重点測光
画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

デジタル ESP 測光（electro selective pattern）
画面内を49エリアに分割して個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

被写界深度
ある距離に焦点を合わせたとき、その距離にある被写体がはっきりと写るのと同時に被写体の前後でも、焦点が合っている範囲があります。このはっきりと写っている被写体の前後の奥行のことをいいます。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

アルファベット順

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッター速度をカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッター速度をカメラに任せるAモード、シャッター速度を決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッター速度の両方を決める必要があります。

A モード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AUTO モード
プログラムAE露出（Pモード参照）に加えて、暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップするモード。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構の略称。デジタルカメラの感度はフィルム感度とともにISO規格で定められているため、感度を表す記号として「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

M モード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC/PAL（National Television Systems Committee/Phase Alternating Line）

テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

P モード（program mode）

プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

RAW データ

未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社独自のファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

S モード（shutter speed priority mode）

シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度にしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TFT（thin-film transistor）

カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-taking-lens）方式

カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL 位相差検出方式

位相差をもとに被写体までの距離を測り、焦点を合わせる方式。

仕様

カメラの仕様

■ 型式

型式	：レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
使用レンズ	：ズイコーデジタル・フォーサーズシステムレンズ
レンズマウント	：フォーサーズマウント
35 mmフィルムカメラ換算焦点距離	：レンズ焦点距離の約2倍

■ 撮像素子

型式	：4/3型Live MOSセンサー
カメラ部有効画素数	：約1000万画素
画面サイズ	：17.3 mm（H）× 13.0 mm（V）
アスペクト比	：1.33（4:3）

■ ファインダ

形式	：TTL一眼レフファインダ
視野率	：上下左右とも約95%（対実画面）
ファインダー倍率	：約0.92倍（-1 m^{-1}、50 mmレンズ・無限遠）
アイポイント	：カバーガラスより14 mm（-1 m^{-1}時）
視度調整範囲	：-3.0～+1.0 m^{-1}
光路分割	：クイックリターン式全面ハーフミラー
被写界深度確認	：◁ボタンをプレビューに設定することで可能
フォーカシング スクリーン	：固定式
アイカップ	：交換式

■ ライブビュー

：撮影用Live MOSセンサー使用
：視野率100%

■ 液晶モニタ

型式	：2.5型TFTカラー液晶（ハイパークリスタル液晶）
総画素数	：約23万画素

■ シャッター

型式	：電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	：1/4000～60秒、バルブ撮影

■ オートフォーカス

型式	：TTL位相差検出方式
測距点	：3点（左・中央・右）
AF輝度範囲	：EV0～EV19
測距点選択	：自動選択・任意選択
AF補助光	：内蔵フラッシュによる

■ **露出制御**

測光方式	：TTL開放測光方式 (1) デジタルESP測光 (2) 中央重点平均測光 (3) スポット測光（ファインダ画面の約2%）
測光範囲	：EV1～20（デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光） （常温・50 mm F2使用・ISO100相当）
露出モード	：(1) **AUTO**：フルオート (2) **P**　：プログラムAE（プログラムシフト可能） (3) **A**　：絞り優先AE (4) **S**　：シャッター優先AE (5) **M**　：マニュアル
ISO感度	：100～1600
露出補正	：±5EV（1/3ステップ）

■ **ホワイトバランス**

型式	：撮像素子
設定方式	：オート／プリセット（7種）／カスタムWB／ワンタッチWB

■ **記録**

記録媒体	：CFカード（タイプI,II準拠） マイクロドライブ（FAT16/32対応） xD-ピクチャーカード
記録方式	：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、RAWデータ
対応規格	：Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching III、PictBridge

■ **再生**

表示形式	：1コマ表示／拡大表示／インデックス表示／回転表示／スライドショー表示／カレンダー表示
情報表示	：情報表示／ヒストグラム表示

■ **ドライブ関係**

ドライブモード	：1コマ撮影／連写／セルフタイマー／リモコン
連写性能	：3コマ／秒（最大連続撮影コマ数6コマ：RAWのとき）
セルフタイマー	：12秒後撮影／2秒後撮影
光リモコン	：2秒後撮影／即時撮影（専用リモコンRM-1（別売））

■ **フラッシュ**

シンクロ同調	：1/180秒以下で同調
調光方式	：TTL-AUTO（TTLプリ発光式）／AUTO／MANUAL
外部フラッシュ接点	：ホットシュー

■ **外部コネクタ**

USB端子／VIDEO出力端子（マルチコネクタ）

■ **電源**

電池	：リチウムイオン電池（BLS-1）1個

■ **大きさ・質量**

大きさ	：129.5 mm（横）× 91 mm（高さ）× 53 mm（奥行き）（突起部を除く）
質量	：約375 g（電池含まず）

■ **動作環境**

温度	：0～40 °C（動作時）／-20～60 °C（保存時）
湿度	：30～90%（動作時）／10～90%（保存時）

電池・充電器の仕様

リチウムイオン電池 BLS-1

MODEL NO.	：PS-BLS1
形式	：充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：DC7.2 V
公称容量	：1150 mAh
充放電回数	：約500回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（充電） -10 °C～60 °C（動作時） -20 °C～35 °C（保存時）
大きさ	：約35.5 mm（幅）× 55 mm（奥行き）× 12.8 mm（高さ）
質量	：約46 g

リチウムイオン充電器 BCS-1

MODEL NO.	：PS-BCS1
定格入力	：AC100 V～240 V（50/60 Hz）
定格出力	：DC8.35 V 400 mA
充電時間	：約210分 （常温：BLS-1ご使用の場合）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（動作時）／-20 °C～60 °C（保存時）
大きさ	：約62 mm（幅）× 83 mm（奥行き）× 38 mm（高さ）
質量	：約72 g（電源コード含まず）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありまので、あらかじめご了承ください。

10 交換レンズについて

レンズについて

使用できるレンズ

撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
レンズは専用レンズ（フォーサーズマウント）をご使用ください。専用レンズ以外では、オートフォーカス（AF）や正確な測光はできません。また、働かない機能があります。

フォーサーズマウント

オリンパスが開発した規格。フォーサーズシステムのレンズマウント規格。既存の35 mmフィルム一眼レフカメラ用レンズシステムにとらわれず、デジタルカメラの特性にふさわしい光学設計に基づいて、新たに開発されたデジタルカメラ専用の交換レンズです。

ZUIKO DIGITAL 用交換レンズ

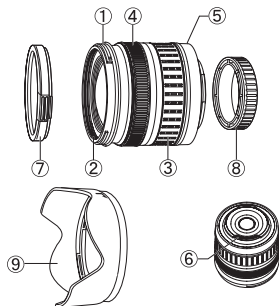
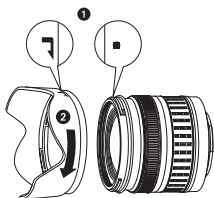
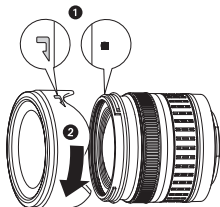
過酷なプロユースにも耐えうるよう設計された「フォーサーズシステム」専用の交換レンズです。「フォーサーズシステム」の利点を活かすことで、大口径でありながら小型軽量化を実現しています。

注意

- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- 埃の多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、埃の侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

ZUIKO DIGITAL 交換レンズについて

■ 各部の名称

①フード取り付け部
②フィルター取り付けネジ
③ズームリング
④フォーカスリング
⑤取り付け指標
⑥電池回路接点
⑦フロントキャップ
⑧リアキャップ
⑨レンズフード

■ フードの取り付け方

■ フードの収納のしかた

• 逆光時はフードを取り付けて撮影してください。
• 17.5-45 mmはレンズフードが付きません。

■ 主な仕様

項目	17.5-45 mm	14-42 mm	40-150 mm
マウント	フォーサーズマウント		
焦点距離	17.5～45 mm	14～42 mm	40～150 mm
最大口径比	F3.5～5.6	F3.5～5.6	F4～5.6
画角	63°～27°	75°～29°	30°～8.2°
レンズ構成	7群7枚	8群10枚	9群12枚
	多層膜コーティング（一部単層）		
絞り制御	F3.5～22	F3.5～22	F4～22
撮影距離	0.28 m～∞	0.25 m～∞	0.9 m～∞
ピント調整方式	AF/MF切り換え		
質量（フード、キャップを除く）	210 g	190 g	220 g
大きさ（最大径 × 全長）	ø71 × 70 mm	ø65.5 × 61 mm	ø65.5 × 72 mm
レンズフード取り付け	―	バヨネット式	
フィルター取り付けネジ径	52 mm	58 mm	

別売のエクステンションチューブEX-25は下記の範囲で使用できます。
EX-25取り付け時のピントの調整方式はMFになります。

レンズ・焦点距離		撮影可能範囲	倍率 （）は35 mmフィルムカメラ換算
17.5-45 mm	17.5 mm	ピントが合わないため使用できません。	
	28 mm	15.1 cm～15.9 cm	0.89～1.16×（1.78～2.32×）
	45 mm	18.4 cm～22.4 cm	0.57～0.91×（1.14～1.82×）
14-42 mm	14 mm	ピントが合わないため使用できません。	
	25 mm	13.3 cm	1.02×（2.04×）
	42 mm	16.2 cm～17.3 cm	0.61～0.69×（1.22～1.38×）
40-150 mm	40 mm	19.0 cm～20.4 cm	0.61～0.70×（1.22～1.40×）
	80 mm	28.0 cm～40.6 cm	0.32～0.48×（0.64～0.96×）
	150 mm	48.0 cm～118.8 cm	0.17～0.39×（0.34～0.78×）

■ 保管上のご注意

- 使用後は清掃して保管してください。レンズ面のごみや汚れは、ブロワーブラシや刷毛で取り除きます。レンズの汚れは市販のレンズクリーニングペーパーを使ってください。
- 必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 有機溶剤は使わないでください。

撮影時のご注意

- フィルターを2枚以上重ねたり、厚さのある種類を使用したときは、画面にけられが生ずることがあります。

11 その他

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない**
  引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュやLEDを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない**
  以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってケーブル類やストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡し、指示を受けてください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない**
  火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない**
  連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない**
  感電やけがをする原因となります。

- **内部に水や異物を入れない**
  火災や感電の原因になります。万一、水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない**
  充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。
- **専用の電池または充電器以外は使用しない**
  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用を中止する**
  火災や、やけどの原因となります。このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- **濡れた手で操作しない**
  故障、感電の原因となることがあります。また充電器などの電源プラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- **カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する**
  けがや事故の原因となることがあります。
- **高温になるところへ放置しない**
  部品の劣化、火災の原因となります。
- **充電器などのコードは傷つけたり、引っ張ったり、継ぎ足したりしない**
  コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持って行ってください。以下の場合はただちに使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに傷、断線、またはプラグに接触不良がある。
- **交換レンズについてのご注意**
  - レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ない失明や視力障害を起こすことがあります。
  - 使用しないときはレンズキャップをつけて保管する太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- **火の中に投下したり、加熱しない**
  発火・破裂・火災の原因となります。
- **（+）（−）端子を金属等で接続しない**
- **電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない**
  ショート、発熱し、やけど・けがの原因となります。
- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で使用・放置しない**
  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。
- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない**
  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない**
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電池の液が目に入った場合は、失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流したあと、直ちに医師の診断を受けてください。**

⚠ 警告

- **電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない**
- **濡れた手で電池を触ったり持ったりしない**
- **所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止する**
  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **外装にキズや破損のある電池は使用しない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない**
- **液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止する**
  販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。**

⚠ 注意

- **カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さない**
  やけどの原因となることがあります。
- **長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく**
  液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。

充電器についてのご注意

⚠ 危険

- **充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない**
  故障・感電の原因となります。
- **充電器を布などで覆った状態で使用しない**
  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。
- **充電器を分解・改造しない**
  感電・けがの原因となります。
- **充電器は指定の電源電圧で使用する**
  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破壊・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **コンセントからの抜き差しは、必ず充電器本体を持つ**
  充電器本体を持たないと、火災・感電の原因となることがあります。
  以下の場合はすぐに使用を中止し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに接触不良がある。

⚠ 注意

- **お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う**
  電源プラグを抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 電気接点部や交換用レンズには触れないでください。レンズを外したときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。

- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、(+) 端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ (http://www.baj.or.jp/recycle/) をご覧ください。

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

レンズについて

- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- 使用温度範囲をお守りください。

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップル社の登録商標です。
xD-ピクチャーカード™は商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAX または郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。ご記入いただいたお客様の個人情報は、本お問い合わせ対応のためだけに利用し、それ以外の目的には利用いたしません。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

●お名前（フリガナ）
●連絡先：郵便番号
住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
電話番号／FAX
E-mail
●製品名（型番）：E-410
●シリアル番号（製品底面に記載されています）：
●お買い上げ日：
●問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など）：

※ 以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

・ご使用のパソコンの種類：
・パソコンメーカー・型番等
・メモリの容量　ハードディスクの空き容量：
・OS名とバージョン：
・（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
・（Windows）コントロールパネル ― システム ― デバイスマネージャーの内容
・その他接続されている周辺機器名：
・問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：
・問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

OLYMPUS

オリンパス イメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

フリーダイヤル
0120-084215

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から
「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。**

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ
http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

VH885001